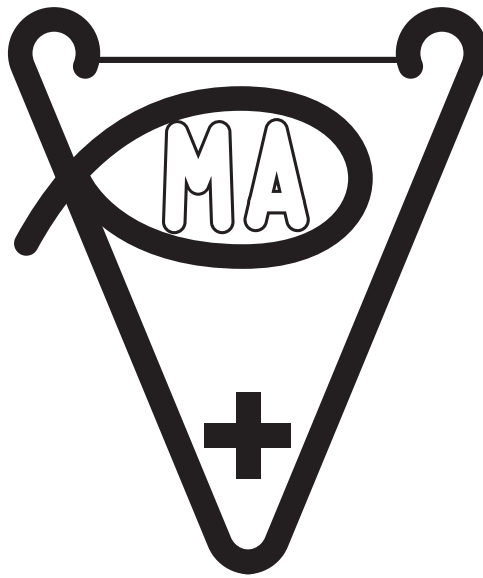


令和8年度
SYLLABUS



秋田市医師会立秋田看護学校

高い能力を持った看護師

：

地域社会における
保健・医療・福祉に貢献できる

生命と人格を尊重する
思いやり

豊かな感性と知性



校章の起源

外形のデザインは日医の会員証に準拠するとともに秋田のAを図案化しその中央に Medical Association のイニシャルを示し下辺に看護のシンボルを表したものである。

なおこの校章は昭和39年の制定である。

目 次

教育理念	1
講師名簿	14
基礎分野	
情報リテラシー	17
生物学	18
論理学	19
教育学	20
英語	21
人間関係論	22
文学	23
心理学	24
カウンセリング	25
社会学	26
倫理学	27
スポーツ科学	28
家族関係論	29
看護におけるホスピタリティ	30
専門基礎分野	
からだの仕組みと働き I・II・III	31
形態機能学	34
生化学	35
栄養学	36
微生物学	37
病態学総論	38
呼吸器の病態論	39
循環器の病態論	40
消化器の病態論	41
腎・泌尿器の病態論	42
内分泌・代謝・造血の病態論	43
脳神経の病態論	44
運動器の病態論	45
生殖器の病態論	46
小児の病態論	47
精神の病態論	48
薬理学	49
健康科学	50
公衆衛生学	51
社会福祉	52
チーム医療論	53
関係法規 I	54
関係法規 II	55
専門分野	
看護学概論	57
看護倫理	58

目 次

看護研究概説	59
フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ	60
基本的技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	62
看護過程	65
日常生活の援助技術Ⅰ・Ⅱ	66
診療の補助技術Ⅰ・Ⅱ	68
医療のカンファレンス	71
秋田を知る	72
暮らしの理解	73
地域・在宅看護概論	74
健康と暮らしを支える技術	75
健康と暮らしを支える看護	76
成人看護学概論	77
がんとともに生きる成人看護	79
生きているための成人看護	80
生きていくための成人看護	81
成人看護技術	82
成人・老年期の生命の危機にある人の看護	83
成人・老年期の生を支え再構築する看護	84
老年看護学概論	85
健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	86
高齢者のより健康な生活を支援する看護	87
社会の中でともに育つ子ども	88
健康障害をもつ子どもとその家族	89
子どもの病気と看護	90
子どものケア	91
母性看護学概論	92
周産期ケア論	93
母性看護技術	94
周産期の健康逸脱と看護	95
精神看護学概論	96
精神看護技術	98
精神の健康障害と看護	99
精神障害者の日常生活援助	100
国際看護	101
災害看護	102
看護マネジメントと医療安全	103
看護の統合	105

臨地実習

基礎看護学実習	107
地域・在宅看護論実習	108
成人・老年看護学実習	109
成人期の慢性期・終末期実習	110
老年看護学実習	111
小児看護学実習	112
母性看護学実習	113
精神看護学実習	114
看護の統合と実践	115

教育理念

豊かな感性と知性を有し、生命と人格を尊重する思いやりに満ち、秋田県のみならず広い社会の保健・医療・福祉に貢献できる高い能力と行動力のある人を育成することを目指す。

教育目的

豊かな人間性と医療人としての精神を育成し、科学的に判断する能力を養い、看護師としての専門知識と技術を修得させ、専門職業人として地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成する。

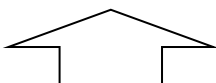
教育目標

- 1 生命を尊重し、人格を思いやることのできる豊かな人間性を身につけることができる。
- 2 生命の安全を保障するために必要な専門知識・技術・態度を基盤に看護を実践することができる。
- 3 地域社会に関心を持ち、すべての保健・医療・福祉の分野に貢献できる。
- 4 (生涯にわたって)自主的かつ継続的に自己啓発できる。

学年目標

3年次

- 1 他職種の中で看護師の役割を実践できる。
- 2 自己の課題の達成に向け、計画的に取り組み達成状況を評価できる。



2年次

- 1 知的好奇心をもって自分なりに解決することができる。
- 2 科学的根拠をもち対象にあった看護実践ができる。
- 3 地域の特性に対して他職種との協力を得ながら解決方法を見出すことができる。
- 4 自己の学習課題を明確にして、目標をもって取り組むことができる。



1年次

- 1 物事や人間に対する興味や関心をもつことができる。
- 2 生命と人格を尊重でき、誰にでも思いやりをもった行動ができる。
- 3 生命・安全を保障するための基本的な知識・技術・態度が理解できる。
- 4 自分の生活の場を知り、秋田県の特徴が理解できる。
- 5 学習の必要性を理解し、学習習慣を身につけることができる。

看護の主要概念の定義

人間	<p>人間とは、「生」から「死」というライフサイクルにあり、恒常性や自然治癒力を備え基本的欲求・自立心を持ち、発達段階や性別に応じた役割を持つ。さらに信念と理性や想像力・創造力により自己実現を目指す。</p> <p>生まれながらに自由・平等であり、基本的な権利を有し尊厳が守られ、環境との関わりの中で発達していく看護の対象である。</p>
環境	<p>環境とは、人間を取り巻くすべてであり、社会・文化・自然を指し、人間との相互作用で変化し健康に大きく影響し、影響される。</p>
健康	<p>健康とは、身体的・精神的・社会的にバランスはとれた状態(最良な状態)であり、自分らしさを最大限に発揮して生活できる状態である。</p>
看護	<p>看護とは、その人がその人らしくあるように健康の保持・増進・回復に関わることであり、あらゆる成長・発達段階にある個人とその家族または集団を対象とする。そのために科学的な根拠を持ち健康上の問題を明らかにし、問題を解決するために系統的に働きかけ対象者の日常生活を整え、自己感情の尊重と自己決定できるように援助する。</p>
教育・学習者	<p>学習者とは、成人期にあつて知識・技術・態度に対し向上しようと目的意識を持ち、達成しようと努力する人であり教育の対象である。</p> <p>教育とは、知識・技術・態度を習得できるようにする事であり、学習者の可能性を引き出し、その可能性を学習者が自ら主体的に伸ばしていけるように働きかける。</p>
人間	<p>人間とは、「生」から「死」というライフサイクルにあり、恒常性や自然治癒力を備え基本的欲求・自立心を持ち、発達段階や性別に応じた役割を持つ。さらに信念と理性や想像力・創造力により自己実現を目指す。</p> <p>生まれながらに自由・平等であり、基本的な権利を有し尊厳が守られ、環境との関わりの中で発達していく看護の対象である。</p>

用語の定義

感性	あらゆる物事や人間に対する興味や関心を持ち、これらに対する知的好奇心をもって自分なりに解決しようとするプロセス。「生きる力」は感性に含める。
知性	知性とは、看護師としての知識を身につけ。専門的スキルにすぐれ、看護における抽象的な概念を理解でき、さらにそれを言葉で表現できる能力を身につけていること。
尊重	人間の生命、人間としての尊厳を尊い者として重んじる。相手の気持ちを大切に尊い者として敬意を示す。
思いやり	思いやりとは、人と共有することである。 看護師として、相手の立場や気持ちを理解しようとする自然発生的ににじみ出す心である。
秋田	秋田県は、少子高齢化が進み、生活習慣病の発生率が高く健康問題が深刻な地域である。地域の特性を踏まえ疾病予防、健康増進などあらゆる場面で対応していく総合的能力が必要とされる看護職が求められている。
広い社会	広い社会とは、地域に留まらず国内外の社会。 広い社会には、国際的に広い視野で物事を見据えられる能力の基礎能力を表し、広い社会には地域社会が含まれる。
高い能力	高い能力とは、あらゆる看護場面に対応できる判断能力・応用能力・問題解決能力及び実践能力を発揮できる専門職としての能力をいう。
育成	育成とは、養い育てること。立派に育てあげること。
医療人	医療人とは、医師・看護師をはじめとする医療・保健・福祉にたずさわるすべての人々をいう。
看護師	看護師とは、あらゆる看護場面に対応できる判断能力・応用能力・問題解決能力及び実践能力を身につけ、対象を思いやれる人柄を有する専門職業人である。
あらゆる看護場面	各健康レベルや各ライフサイクルにある人々、医療施設の内外にとらわれずに看護を必要とする場面である。
地域社会	地域社会には、すべての保健・医療・福祉が含まれ、地域住民に対するサービスも含まれる。

単位履修と学期・講義

1 単位履修

科目別単位数は、1 単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次に掲げる基準により計算するものとする。

- (1) 1 単位の授業時間数は、講義及び演習は15時間から30時間まで、実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で構成するものとする。
- (2) 臨地実習については、1 単位を45時間の実習をもって構成するものとする。

〔単位の認定〕

単位の修得は、講義に必要な時間数を出席し、その試験を合格した者に所定の単位を与える。

2 学期

1年次を2学期に分ける	前 期 : 4月1日から9月30日 後 期 : 10月1日から3月31日
-------------	---

3 授業時間

出校曜日 : 月曜日から金曜日

1 講 : 90分

1 日 : 4講

1 週 : 40時間

時限	授業時間
SH R	8:50 ~ 9:00
1時限	9:00 ~ 10:30
2時限	10:40 ~ 12:10
3時限	13:10 ~ 14:40
4時限	14:50 ~ 16:20

4 実習時間

8:30~16:15

1単位 45時間(5日間)とする
2単位 90時間(10日間)とする

科目設定及び設定理由

基礎分野

科目名と科目の設定理由	
情報リテラシー	情報社会に対応するために情報分析する知識と統計処理について理解し、看護に応用できる基礎とする。
生物学	生体を構成する細胞の構造や発生・遺伝などの生命の仕組みを理解することで、人間理解の基礎とする。
論理学	論理的思考を学習することで、自らの思考を検証していく科学的態度を養う。
教育学	教育の基本的な考えを知り、健康教育・患者教育の基礎知識を理解し、看護に必要な指導方法の基盤とする。
英語	広い視野にたつて国際的に活躍できる素地を育成する。
人間関係論	人間関係の形成に必要な知識や技術を学ぶことで、さまざまな場面における対人関係成立の基礎とする。
文学	文学作品に触れることで、洞察力と感性を育てる。さらに読解力・表現力を身につけることで人としての豊かさを育成する。
心理学	人間の知覚、感情、認知、行動、心の発達を心理学的な立場から理解し、人間理解の基盤とする。
カウセリング	看護の対象となる人々の健康問題に共感的理解をもって解決に導くための技術を習得する。
社会学	社会に目を向け、社会の構造とそれを構成する人・家族・集団の関係や機能を理解する。
倫理学	生命をとりまく医療の現状を学び、生命の尊厳と人権擁護について理解する。
スポーツ科学	学生が自己の健康を維持・増進に必要な知識・技術の習得と実践を通して、健康管理の方法を理解する。
家族関係論	社会の最小単位である家族の在り方を通して、家族とは、家族関係とは、家族と社会の関連などを学習することで、対象の理解を深めるとともに健康指導の実践能力を高める。
看護におけるホスピタリティ	接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。医療組織の一員としての意識を持ち、安心感と信頼を与えることができる能力を育成する。

専門基礎分野

科目名と科目の設定理由	
からだの仕組みと働きⅠ	人体を系統だて理解し、健康と疾病の理解の基礎とする。さらに、体の細胞・組織・器官の生理機能を理解し、解剖学と関連づけ、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。
からだの仕組みと働きⅡ	
からだの仕組みと働きⅢ	
形態機能学	人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。
生化学	生体を構成する物質や生体内の物質代謝について学び、健康維持の方法や疾病による変化を理解し援助技術の基礎とする。
栄養学	看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるための看護援助の基礎とする。
微生物学	健康を脅かす微生物の働きと感染の関係、発生のメカニズムを理解し、変化する感染症への対応や感染予防対策の基礎とする。
病態学総論	疾病のメカニズム、疾病による機能障害と治療法を学ぶことで、健康の回復増進の援助技術の基礎とする。
呼吸器の病態論	
循環器の病態論	
消化器の病態論	
腎・泌尿器の病態論	
内分泌・代謝・造血の病態論	
脳神経系の病態論	
運動器の病態論	
生殖器の病態論	
小児の病態論	
精神の病態論	
薬理学	
健康科学	健康とは何か、健康の阻害因子など影響を与える要因は何か、また健康の保持増進の方法とは何かを科学的に学び健康教育の基礎とする。
公衆衛生学	環境が健康に及ぼす影響、健康を維持する上で必要な環境への働きなど、健康と環境の関係を学習することで、セルフケア能力を高めるための援助技術の基礎とする。
社会福祉	社会福祉の概念と歴史を学び、福祉制度とサービスを理解し看護活動に活かせる援助技術の基礎とする。
チーム医療論	チーム医療の意義と目的を学び、各職種の専門性と多職種との協働、各チームにおける機能・役割について理解し、チーム医療における看護の役割を考える基礎とする。
関係法規Ⅰ	医療及び生活に関連した諸法規の種類や内容、看護職の法的責任を学ぶことで、医療現場における安全確保の援助技術の基礎とする。
関係法規Ⅱ	

専門分野

科目名と科目の設定理由	
基礎看護学	看護の概念と看護の役割を認識し、人間の理解と看護実践の基礎的能力を養う。
地域・在宅看護論	地域・在宅で生活する人々と家族の健康を支援するために生活の基盤である地域を理解し、健康と暮らしを継続的に支援することを学ぶ。
成人・老年看護学	成人・老年における、各健康レベルの特徴を理解し、生命の維持・回復、生活の再構築と日常生活への適応に向けた看護について理論と方法を学ぶ。
成人看護学	成人期にある人々の身体的・心理・社会的、スピリチュアル的特徴および発達段階を理解し、あらゆる健康レベルにある成人期の対象が抱える健康問題とそれらの解決を支援する看護について学ぶ。
老年看護学	高齢者を取り巻く社会を理解し、高齢者の特徴と老化に応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。
小児看護学	小児を次の時代を担う大切な存在であることを認識し、小児期にある人たちが日々成長・発達し続けることを理解し、疾病や障害を持つ各期の特徴を理解し、小児と家族、取り巻く人への看護の在り方を学ぶ。
母性看護学	女性の健康を守るために学ぶべきことは、母性の概念や母子保健、リプロダクティブヘルス/ライツ、ライフサイクル各期における看護など多岐にわたる。このような女性の生涯の健康と次世代育成のための支援を学ぶ。
精神看護学	人間の健全な心の発達と心の健康に影響を与える要因を理解する。心の健康を維持するための援助、心のバランスを崩している人や精神に障害をもつ人とその家族に対する援助について学習する。その過程を通して自己洞察し得る態度を養う。
看護の統合と実践	看護師は様々な環境下で、様々な価値観、文化的背景を持った対象に対応できる能力を養う必要がある。また、組織の中での看護師の役割を学び多職種と連携して対象を支援していく能力を育成する。さらに、対象の状況に応じて既習の知識・技術・態度を引き出し、それらを統合した学習場面から臨床判断能力を養う。

教育課程の構造図(19期生・20期生)

基礎分野から専門基礎分野、そして専門分野の学習の統合である。

専門分野
臨地実習: 成人・老年健康管理実習、周手術期実習、成人慢性・終末期実習、老年看護学実習、小児看護学実習 母性看護学実習、精神看護学実習、看護の統合と実践
看護の統合と実践: 国際看護、災害看護、看護マネジメントと医療安全、看護の統合 精神看護学: 精神看護学概論、精神看護技術、精神の健康障害と看護、精神障害者の日常生活援助 母性看護学: 母性看護学概論、周産期ケア論、母性看護技術、周産期の健康逸脱と看護 小児看護学: 社会の中で共に育つ子ども、健康障害を持つ子どもとその家族、子どもの病気と看護、子どものケア 老年看護学: 高齢者を支えるための看護、健康障害を持つ高齢者の回復を促す看護 高齢者のより健康な生活を支援する看護 成人・老年看護学: 成人・老年期の生命の危機にある人の看護、成人・老年期の生を支え再構築する看護 成人看護学: 社会の中の成人看護、がんとともに生きる看護、生きているための看護、生きていくための看護、成人看護技術
臨地実習: 地域を知る実習、在宅看護論実習
地域・在宅看護論: 秋田を知る、暮らしの理解、地域・在宅看護論、暮らしと環境、健康と暮らしを支える技術 健康と暮らしを支える看護
基礎看護学実習: 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲ
基礎看護学: 看護学概論、看護倫理、看護研究概説、フィジカルアセスメント

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度: 健康科学・公衆衛生学・社会福祉・チーム医療・関係法規Ⅰ～Ⅱ 疾病の成り立ちと回復の促進: 病態学総論・呼吸器の病態論・循環器の病態論・消化器の病態論・腎・泌尿器の病態論 内分泌・代謝・造血の病態論・脳神経の病態論・運動器の病態論・生殖器の病態論 小児の病態論・精神の病態論・薬理学 人体の構造と機能: からだの仕組みと働きⅠ～Ⅲ・形態機能学・生化学・栄養学・微生物学

基礎分野

人間と生活、社会の理解: 人間関係論・文学・心理学・カウセリング・社会学・倫理学 スポーツ科学・家族関係論・看護におけるホスピタリティ 科学的思考の基盤: 情報リテラシー・生物学・論理学・教育学・英語
--

教育課程の構造図(21期生)

基礎分野から専門基礎分野、そして専門分野の学習の統合である。

専門分野
臨地実習: 看護の統合と実践 地域・在宅看護論実習、成人・老年期の周手術期実習、成人期の慢性・終末期実習、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、 小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、 成人・老年健康管理実習 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲ
看護の統合と実践: 国際看護、災害看護、看護マネジメントと医療安全、看護の統合 精神看護学: 精神看護学概論、精神看護技術、精神の健康障害と看護、精神障害者の日常生活援助 母性看護学: 母性看護学概論、周産期ケア論、母性看護技術、周産期の健康逸脱と看護 小児看護学: 小児看護学概論、健康障害を持つ子どもとその家族、子どもの病気と看護、子どものケア 老年看護学: 老年看護学概論、健康障害を持つ高齢者の回復を促す看護 高齢者のより健康な生活を支援する看護 成人看護学: 成人看護学概論、がんとともに生きる看護、生きていくための看護、生きていくための看護、成人看護技術 成人・老年看護学: 成人・老年期の生命の危機にある人の看護、成人・老年期の生を支え再構築する看護
地域・在宅看護論: 秋田を知る、暮らしの理解、地域・在宅看護論、暮らしと環境、健康と暮らしを支える技術 健康と暮らしを支える看護
基礎看護学: 看護学概論、看護倫理、看護研究概説、フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ、基本的技術Ⅰ～Ⅲ、看護過程、 日常生活の援助技術Ⅰ・Ⅱ、診療の補助技術Ⅰ・Ⅱ、医療のカンファレンス

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度: 健康科学・公衆衛生学・社会福祉・チーム医療・関係法規Ⅰ～Ⅱ 疾病の成り立ちと回復の促進: 病態学総論・呼吸器の病態論・循環器の病態論・消化器の病態論・腎・泌尿器の病態論 内分泌・代謝・造血の病態論・脳神経の病態論・運動器の病態論・生殖器の病態論 小児の病態論・精神の病態論・薬理学 人体の構造と機能: からだの仕組みと働きⅠ～Ⅲ・形態機能学・生化学・栄養学・微生物学

基礎分野

人間と生活、社会の理解: 人間関係論・文学・心理学・カウセリング・社会学・倫理学 スポーツ科学・家族関係論・看護におけるホスピタリティ 科学的思考の基盤: 情報リテラシー・生物学・論理学・教育学・英語
--

令和8年度教育課程（学年別の授業科目・単位数・時間数）19・20期生

教育内容	授業科目	単位	時間	2年次		3年次		
				単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基礎	情報リテラシー	1	30				
		生物学	1	30				
		論理学	1	30				
		教育学	1	15				
		英語	1	30	1	30		
	計	5	135	1	30			
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30				
		文学	1	30				
		心理学	1	30				
		カウンセリング	1	30	1	30		
社会学		1	30					
倫理学		1	15					
スポーツ科学		1	30					
家族関係論 看護におけるホスピタリティ		1	15					
計	9	240	1	30				
基礎分野小計		14	375	2	60			
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1	30				
		からだの仕組みと働きⅡ	1	30				
		からだの仕組みと働きⅢ	1	15				
		形態機能学	1	30				
		生化学	1	30				
		栄養学	1	15				
		微生物学	1	30				
		計	7	180				
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1	15				
		呼吸器の病態論	1	30				
		循環器の病態論	1	30				
		消化器の病態論	1	30				
		腎・泌尿器の病態論	1	30				
		内分泌・代謝・造血の病態論	1	30	1	30		
		脳神経の病態論	1	15	1	15		
		運動器の病態論	1	15	1	15		
		生殖器の病態論	1	15	1	15		
		小児の病態論	1	15	1	15		
		精神の病態論	1	30	1	30		
薬理学	1	30	1	30				
計	12	285	7	150				
健康支援と社会保障制度	健康科学	1	15					
	公衆衛生学	1	15					
	社会福祉	1	30			1	30	
	チーム医療論	1	15			1	15	
	関係法規Ⅰ	1	15			1	15	
	関係法規Ⅱ	1	15			1	15	
計	6	105			4	75		
専門基礎分野小計		25	570	7	150	4	75	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30				
		看護倫理	1	15	1	15		
		看護研究概説	1	30			1	30
		フィジカルアセスメント	1	30				
		基本的技術Ⅰ	1	15				
		基本的技術Ⅱ	1	15				
		看護過程	1	30				
		日常生活の援助技術Ⅰ	1	15				
		日常生活の援助技術Ⅱ	1	30				
		診療の補助技術Ⅰ	1	15				
	診療の補助技術Ⅱ	1	15	1	15			
	計	11	240	2	30	1	30	
	地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15				
		暮らしの理解	1	15				
		地域・在宅看護概論	1	15				
暮らしと環境		1	30					
健康と暮らしを支える技術		1	30	1	30			
健康と暮らしを支える看護		1	30	1	30			
計	6	135	2	60				

専門分野	成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30	1	30		
		成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30	1	30		
		計	2	60	2	60		
	成人看護学	社会の中の成人看護	1	15				
		がんとともに生きる成人看護	1	30	1	30		
		生きているための成人看護	1	30	1	30		
		生きていくための成人看護	1	30	1	30		
		成人看護技術	1	15	1	15		
	計	5	120	4	105			
	老年看護学	高齢者を支えるための看護	1	15				
		健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30	1	30		
		高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30	1	30		
	計	3	75	2	60			
	小児看護学	社会の中でともに育つ子ども	1	30	1	30		
		健康障害をもつ子どもとその家族	1	30	1	30		
		子どもの病気と看護	1	15	1	15		
		子どものケア	1	30	1	30		
	計	4	105	4	105			
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	1	30		
		周産期ケア論	1	30	1	30		
		母性看護技術	1	15	1	15		
		周産期の健康逸脱と看護	1	30	1	30		
	計	4	105	4	105			
精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30			
	精神看護技術	1	15	1	15			
	精神の健康障害と看護	1	30	1	30			
	精神障害者の日常生活援助	1	30	1	30			
計	4	105	4	105				
看護の統合と実践	国際看護	1	15			1	15	
	災害看護	1	15			1	15	
	看護マネジメントと医療安全	1	30	1	30			
	看護の統合	1	15			1	15	
計	4	75	1	30	3	45		
専門分野小計		43	1020	25	660	4	75	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45					
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45					
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90	2	90			
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90					
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90			2	90	
	成人・老年期の健康管理実習	1	45	1	45			
	成人・老年期の周手術期実習	2	90			2	90	
	成人期の慢性・終末期実習	2	90			2	90	
	老年看護学実習	2	90			2	90	
	小児看護学実習	2	90			2	90	
	母性看護学実習	2	90			2	90	
	精神看護学実習	2	90			2	90	
	看護の統合と実践	2	90			2	90	
臨地実習小計	23	1035	3	135	16	720		
3分野・臨地実習合計		105	3000	37	1005	24	870	

令和8年度教育課程（学年別の授業科目・単位数・時間数）21期生

教育内容	授業科目	単位	時間	1年次		
				単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基礎	情報リテラシー	1	30	1	30
		生物学	1	30	1	30
		論理学	1	30	1	30
		教育学	1	15	1	15
		英語	1	30		
	計	5	135	4	105	
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	1	30
		文学	1	30	1	30
		心理学	1	30	1	30
		カウンセリング	1	30		
		社会学	1	30	1	30
		倫理学	1	15	1	15
		スポーツ科学	1	15	1	15
		家族関係論	1	30	1	30
看護におけるホスピタリティ	1	15	1	15		
計	9	225	8	195		
基礎分野小計		14	360	12	300	
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1	30	1	30
		からだの仕組みと働きⅡ	1	30	1	30
		からだの仕組みと働きⅢ	1	15	1	15
		形態機能学	1	30	1	30
		生化学	1	30	1	30
		栄養学	1	15	1	15
		微生物学	1	30	1	30
	計	7	180	7	180	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1	15	1	15
		呼吸器の病態論	1	30	1	30
		循環器の病態論	1	30	1	30
		消化器の病態論	1	30	1	30
		腎・泌尿器の病態論	1	30	1	30
		内分泌・代謝・造血の病態論	1	30		
		脳神経の病態論	1	15		
		運動器の病態論	1	15		
		生殖器の病態論	1	15		
		小児の病態論	1	15		
		精神の病態論	1	30		
		薬理学	1	30		
	計	12	285	5	135	
	健康支援と社会保障制度	健康科学	1	15	1	15
		公衆衛生学	1	15	1	15
		社会福祉	1	30		
		チーム医療論	1	15		
関係法規Ⅰ		1	15			
関係法規Ⅱ		1	15			
計	6	105	2	30		
専門基礎分野小計		25	570	14	345	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30
		看護倫理	1	15		
		基本的技術Ⅰ	1	15	1	15
		基本的技術Ⅱ	1	15	1	15
		基本的技術Ⅲ	1	15	1	15
		日常生活の援助技術Ⅰ	1	30	1	30
		日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	1	30
		フィジカルアセスメントⅠ	1	15	1	15
		フィジカルアセスメントⅡ	1	15	1	15
		診療の補助技術Ⅰ	1	15	1	15
		診療の補助技術Ⅱ	1	15	1	15
		看護過程	1	30	1	30
		看護研究概説	1	30		
		医療のカンファレンス	1	15	1	15
計	14	285	12	240		

地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	1	15
	暮らしの理解	1	15	1	15
	地域・在宅看護概論	1	15	1	15
	暮らしと環境	1	15		
	健康と暮らしを支える技術	1	30		
	健康と暮らしを支える看護	1	30		
	計	6	120	3	45
成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30
	がんとともに生きる成人看護	1	30		
	生きているための成人看護	1	30		
	生きていくための成人看護	1	30		
	成人看護技術	1	15		
計	5	135	1	30	
成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30		
	成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30		
計	2	60			
老年看護学	老年看護学概論	1	15	1	15
	健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30		
	高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30		
計	3	75	1	15	
小児看護学	小児看護学概論	1	30		
	健康障害をもつ子どもとその家族	1	30		
	子どもの病気と看護	1	15		
	子どものケア	1	30		
計	4	105			
母性看護学	母性看護学概論	1	30		
	周産期ケア論	1	30		
	母性看護技術	1	15		
	周産期の健康逸脱と看護	1	30		
計	4	105			
精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30
	精神看護技術	1	15		
	精神の健康障害と看護	1	30		
	精神障害者の日常生活援助	1	30		
計	4	105	1	30	
看護の統合と実践	国際看護	1	15		
	災害看護	1	15		
	看護マネジメント	1	15		
	医療安全	1	15		
	看護の統合	1	15		
計	5	75			
専門分野小計		47	1065	18	360
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	1	45
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90		
	地域・在宅看護論実習	2	90		
	成人・老年期の健康管理実習	1	45		
	成人・老年期の周手術期実習	2	90		
	成人期の慢性・終末期実習	2	90		
	老年看護学実習Ⅰ	2	90		
	老年看護学実習Ⅱ	2	90		
	小児看護学実習	2	90		
	母性看護学実習	2	90		
	精神看護学実習	2	90		
	看護の統合と実践	2	90		
	計	23	1035	2	90
3分野・臨地実習合計		109	3030	46	1095

令和8年度 講師名簿 R8.2.19

教育内容	授業科目	単位	時間	講師名	専任・兼任	所属先	年次	時期	
基礎分野	科学的思考の基礎	情報リテラシー	1	30	小林 秀樹	兼任	(有)ネットパーソナルズ	1	前期
		生物学	1	30	石井 照久	兼任	秋田大学教育文化学部学校教育課程 英語・理数教育講座	1	後期
		論理学	1	30	田子 多津子	兼任	前職 慶応義塾大学言語文化研究所	1	後期
		教育学	1	15	山口 香苗	兼任	秋田大学教育文化学部学校教育課程 こども発達・特別支援講座	1	前期
		英語	1	30	大西洋 一	兼任	秋田大学教育文化学部地域文化学科 国際文化講座	2	前期
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	佐々木 久長	兼任	前職 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 看護学講座	1	前期
		文学	1	30	佐藤 雅彦	兼任	JET日本語中講座事務局 秋田大学高等教育グローバルセンター	1	前期
		心理学	1	30	森 和彦	兼任	秋田大学	1	後期
		カウンセリング	1	30	濱田 拓	兼任	臨床心理士	2	前期
		社会学	1	30	和泉 浩	兼任	秋田大学教育文化学部 地域社会講座	1	前期
		倫理学	1	15	田子 多津子	兼任	前職 慶応義塾大学言語文化研究所	1	後期
		スポーツ科学	1	15	松下 翔一	兼任	秋田大学教育文化学部学校教育課程 教育実践講座	1	前期
		家族関係論	1	30	佐々木 久長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 看護学講座	1	後期
		看護におけるホスピタリティ	1	15	皆川 千年	専任	教務主任	1	前期
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1	30	板東 良雄	兼任	秋田大学大学院医学系研究科 機能形態学講座教授	1	前期
		からだの仕組みと働きⅡ	1	30				1	前期・後期
		からだの仕組みと働きⅢ	1	15				1	後期
		形態機能学	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	1	前期・後期
		生化学	1	30	塚田 三香子	兼任	前職 聖霊女子短期大学生活文化科	1	前期・後期
		栄養学	1	15	新田 智子	兼任	しみず内科糖尿病・甲状腺クリニック	1	前期・後期
	微生物学	1	30	原田 誠三郎	兼任	前職 秋田県総合保健事業団	1	後期	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1	15	川村 公一	兼任	早稲田大学先進理工学部	1	前期
		呼吸器の病態論	1	30	伊多波 未来	兼任	市立秋田総合病院	1	後期
					福井 伸	兼任	秋田厚生医療センター		
		循環器の病態論	1	30	阿部 芳久	兼任	市立秋田総合病院	1	前期・後期
		消化器の病態論	1	30	中根 邦夫	兼任	市立秋田総合病院	1	前期・後期
					辻 剛俊	兼任	市立秋田総合病院		
					津田 聡子	兼任	市立秋田総合病院		
菅原 佳恵					兼任	市立秋田総合病院			
松澤 尚徳					兼任	市立秋田総合病院			
腎・泌尿器の病態論		1	30	石田 俊哉	兼任	市立秋田総合病院	1	後期	
内分泌・代謝・造血の病態論		1	30	三浦 岳史	兼任	市立秋田総合病院	2	前期・後期	
				亀岡 吉弘	兼任	秋田赤十字病院			
脳神経の病態論		1	15	石川 達哉	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	
運動器の病態論		1	15	柏倉 剛	兼任	藤原記念病院	2	前期	
生殖器の病態論		1	15	軽部 裕子	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	
小児の病態論		1	15	武田 修	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	
精神の病態論		1	30	藤枝 信夫	兼任	清和病院	2	前期	
薬理学		1	30	佐々木 修	兼任	前職 中通総合病院	2	後期	
健康支援と社会保障制度	健康科学	1	15	伊藤 善信	兼任	前職 秋田市保健所	1	前期	
	公衆衛生学	1	15	伊藤 善信	兼任	前職 秋田市保健所	1	後期	
	社会福祉	1	30	小出 幸博	兼任	前職 社会福祉法人ファミリーケアサービス	3	前期	
				伊藤 梅香	兼任	市立秋田総合病院	3	後期	
	チーム医療論	1	15	成田 雷美	兼任	土崎病院	3	前期	
	関係法規Ⅰ	1	15	鈴木 淳子	兼任	あきた彩ステーション	3	前期	
	関係法規Ⅱ	1	15	菊地 富貴子	兼任	訪問看護ステーションあきた	3	前期	
基礎看護学	看護学概論	1	30	皆川 千年	専任	教務主任	1	前期	
	看護倫理	1	15	京野 順子	専任	副学長	2	前期	
				石川 千夏	兼任	市立秋田総合病院			
	基本的技術Ⅰ	1	15	小林 正嘉	専任	副学長補佐	1	前期	
	基本的技術Ⅱ	1	15	備前 由紀子	専任	専任教員	1	前期	
	基本的技術Ⅲ	1	15	小林 正嘉	専任	副学長補佐	1	前期	
	日常生活の援助技術Ⅰ	1	30	中川 まゆ子	専任	専任教員	1	前期	
	日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	中川 まゆ子	専任	専任教員	1	前期	
	フィジカルアセスメントⅠ	1	15	高山 美帆	専任	専任教員	1	前期	
	フィジカルアセスメントⅡ	1	15	高橋 久美子	専任	専任教員	1	前期・後期	
	診療の補助技術Ⅰ	1	15	杉本 緑	専任	専任教員	1	後期	
	診療の補助技術Ⅱ	1	15	杉本 緑	専任	専任教員	1	後期	
	診療の補助技術Ⅲ	1	15	高山 美帆	専任	専任教員	2	後期	
	看護過程	1	30	藤本 具子	兼任	前職 秋田看護学校	1	前期・後期	
	看護研究概説	1	30	京野 順子	専任	副学長	3	前期・後期	
	医療のカンファレンス	1	15	皆川 千年	専任	教務主任	1	ひ	

専門分野	地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	新堀道生	兼任	秋田県立博物館	1	前期
					丸谷仁美	兼任	秋田県立博物館		
					藤中由美	兼任	秋田県立博物館		
					鈴木秀一	兼任	秋田県立博物館		
				中川まゆ子	専任	専任教員			
		暮らしの理解	1	15	中川まゆ子	兼任	専任教員	1	前期
	地域・在宅看護概論	1	15	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	1	前期	
				藤本具子	兼任	前職 秋田看護学校			
	健康と暮らしを支える技術	1	30	田畑美雪	兼任	彩の風	2	前期	
	健康と暮らしを支える看護	1	30	藤本具子	兼任	前職 秋田看護学校	2	後期	
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	皆川千年	専任	教務主任	1	後期
		がんとともに生きる成人看護	1	30	糸川紅子	兼任	日本赤十字東北看護大学	2	後期
					梅野華乃子	兼任	日本赤十字東北看護大学		
		生きているための成人看護	1	30	藤本具子	兼任	前職 秋田看護学校	2	前期
		生きていくための成人看護	1	30	高橋久美子	専任	専任教員	2	前期
		成人看護技術	1	15	高橋久美子	専任	専任教員	2	前期
	成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30	高山美帆	専任	専任教員	2	前期
		成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30	高橋久美子	専任	専任教員	2	後期
	老年看護学	老年看護学概論	1	15	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	1	後期
		健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	2	前期
		高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	2	後期
	藤本具子				兼任	前職 秋田看護学校			
	小児看護学	社会の中でともに育つ子ども	1	30	薄田悦子	専任	実習調整者	2	
		健康障害をもつ子どもとその家族	1	30	山本尚樹	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
					薄田悦子	専任	実習調整者		
		子どもの病気と看護	1	15	杉本緑	専任	専任教員	2	後期
		子どものケア	1	30	大高恵美	兼任	日本赤十字東北看護大学	2	後期
	薄田悦子				専任	実習調整者	2	後期	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	前期
		周産期ケア論	1	30	古田 由美子	兼任	ゆみっこ助産院	2	前期
		母性看護技術	1	15	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期
		周産期の健康逸脱と看護	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	小林正嘉	専任	副学校長補佐	1	前期
		精神看護学概論	1	30	小林正嘉	専任	副学校長補佐	2	後期
		精神看護技術	1	15	備前 由紀子	専任	専任教員	2	前期
		精神の健康障害と看護	1	30	備前 由紀子	兼任	専任教員	2	前期
		精神障害者の日常生活援助	1	30	高橋 将太	兼任	市立秋田総合病院	2	後期
	備前 由紀子				専任	専任教員			
	看護の統合と実践	国際看護	1	15	新沼 剛	兼任	日本赤十字東北看護大学	3	後期
		災害看護	1	15	鎌田朝子	兼任	秋田厚生医療センター	3	前期
看護マネジメントと医療安全		1	30	吹谷 由美子	兼任	秋田県看護協会	2	前期	
				成田 雪美	兼任	土崎病院	2	前期	
看護の統合		1	15	薄田悦子	専任	実習調整者	3	前期	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	中川まゆ子	専任	専任教員	1	前期	
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	杉本 緑	専任	実習調整者	1	後期	
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90	皆川千年	専任	教務主任	2	前期	
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	小林正嘉	専任	副学校長補佐	3	後期	
	成人・老年期の健康管理実習	1	45	皆川千年	専任	教務主任	2	後期	
	成人・老年期の周手術期実習	2	90	高山美帆	専任	専任教員	3	前期	
	成人期の慢性・終末期実習	2	90	高橋久美子	専任	専任教員	3	後期	
	老年看護学実習	2	90	中川まゆ子	兼任	専任教員	2		
	小児看護学実習	2	90	薄田悦子	専任	実習調整者	3	前期	
	母性看護学実習	2	90	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	3	前期	
	精神看護学実習	2	90	備前 由紀子	専任	専任教員	3	前期	
	看護の統合と実践	2	90	薄田悦子	専任	実習調整者	3	後期	
	108 2985								
カウンセラー				戸田幸子					

基礎分野

科目名		講義担当		所属	
情報リテラシー		小林 秀樹		有限会社ネットパーソンズ	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
実際にパソコンを操作しながら、知識及び基本的操作テクニックを習得しましょう。					
科目のねらい・授業目標					
パソコン及び基本アプリケーションの基本操作方法を習得する。 インターネットの関わる基本リテラシーを高める。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	パソコンの基本操作と扱う際の注意			講義・演習	
2回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
3回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
4回目	Microsoft Excel の操作			講義・演習	
5回目	Microsoft Excel の操作			講義・演習	
6回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
7回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
8回目	Microsoft Word.Excel. PowerPoint のまとめ			テスト/課題	
9回目	クラウド上でのファイル処理			講義・演習	
10回目	インターネットセキュリティ			講義・演習	
11回目	情報収集/検索のしかた			講義・演習	
12回目	情報の取捨選択・ファクトチェック			講義・演習	
13回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
14回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
15回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
16回目	試験			テスト/課題	
評価方法					
課題提出 30点 ポストテスト 70点					
使用するテキスト					
医療・看護系のための情報リテラシー/東京図書					
参考文献					

科目名 生物学		講義担当 石井 照久		所属 秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 毎回の授業の冒頭で、最新の科学ニュースを可能な限り紹介したいです。授業中にタバコの害について、強く触れます。授業中に小テストなどを行いますので、欠席をしないようにしてください。(小テストの日程は未定です)。					
科目のねらい・授業目標 1. 生命観の変遷について概説できる。 2. 生命の誕生の考え方について概説できる。 3. 細胞の構成成分および代謝・化学反応を概説できる。 4. 世の中のものを理解し、生命を概説できる。 5. 遺伝の仕組みを概説できる。 6. 細胞の生と死を概説できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	ガイダンス、サイエンスの始まり、生物学の始まり			講義	
2回目	アリストテレスの生命観、生物学の大きな流れ			講義	
3回目	近代生物学の始まり、ハーヴェーの生命観			講義	
4回目	自然発生説について、パスツールの生命観			講義	
5回目	生命の誕生と進化について(化学進化)			講義	
6回目	生命の誕生と進化について(生物進化)			講義	
7回目	細胞の構成成分(必須6成分)と代謝			講義	
8回目	アミノ酸、タンパク質(酵素)、脂質			講義	
9回目	糖質、核酸、遺伝子、染色体			講義	
10回目	原核細胞と真核細胞			講義	
11回目	どこまでが生命か・生命の定義			講義	
12回目	遺伝の仕組み(2つの遺伝とセントラルドグマ)			講義	
13回目	遺伝の仕組み(遺伝子と病気)			講義	
14回目	細胞の生と死(体細胞分裂と減数分裂)			講義	
15回目	細胞の生と死(初期化された細胞とがん細胞)			講義	
16回目	試験				
評価方法 授業中の小テストや課題(6点×8回=48点)と期末テスト(52点)の合計100点満点で評価する。					
使用するテキスト 系統看護学講座 「専門基礎 生化学」 医学書院					
参考文献 検討中					

科目名		講義担当		所属	
論理学		田子 多津子		前職 慶応義塾大学言語文化研究所	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
筋道を立てて考えることに慣れるよう、練習問題に取り組みましょう。					
科目のねらい・授業目標					
物事を論理的に考える論理的思考能力を養う。					
1, 論理学の基礎					
2, 論理的思考とは何か					
3, 論理的思考の実践					
(様々な事実や情報の分析に基づいて問題を解決する思考力を養う)					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	導入ー論理とは		講義・演習		
2回目	伝わる書き方の練習		講義・演習		
3回目	接続表現に注意する(1)		講義・演習		
4回目	" (2)		講義・演習		
5回目	" (3) (小テスト①)		講義・演習		
6回目	議論の骨格をとらえる(1)		講義・演習		
7回目	" (2)		講義・演習		
8回目	" (3) (小テスト②)		講義・演習		
9回目	論証ー推論(演繹)と推測の違い		講義・演習		
10回目	仮説形成		講義・演習		
11回目	三段論法、暗黙の前提		講義・演習		
12回目	条件構造(1)ー「ならば」の構造、逆・裏・対偶		講義・演習		
13回目	条件構造(2)ー逆は必ずしも真ならず		講義・演習		
14回目	否定の論理(1)		講義・演習		
15回目	否定の論理(2)		講義・演習		
16回目	試験				
評価方法					
授業中の小テスト(40%)と最終の試験(60%)により評価する。					
使用するテキスト					
必要に応じてプリントを配布する。					
参考書は授業中に適宜紹介する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
教育学		山口 香苗		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
日常の教育的な営みに関心をもってみてください。					
科目のねらい・授業目標					
本授業では、教育や学校を成り立たせている子ども観や、学校だけにとどまらない社会における教育的営みなどについて検討し、自分なりの教育観をもてるようになることを目標とする。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	オリエンテーション:「教える」が教育か?		講義 ディスカッション		
2回目	「子どもの発見」と近代		講義 ディスカッション		
3回目	日本の子ども観・教育観		講義 ディスカッション		
4回目	基礎教育と夜間中学		講義 動画視聴		
5回目	教育と福祉のはざま		講義 動画視聴		
6回目	生涯学習の理念と展開		講義 ディスカッション		
7回目	長寿社会における教育・学習		講義 ディスカッション		
8回目	試験				
評価方法					
試験時の最終レポートをもとに判断する。					
使用するテキスト					
特になし。					
参考文献					
授業時に提示する。					

科目名 英 語		講義担当 大西洋一		所属 秋田大学教育文化学部	
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業で、勉強した内容に関する復習小テストをおこないます。 ・ 英語の辞書（紙媒体でも電子辞書でも良い）を用意してください。 ・ 事前に知らない単語を調べ、予習しておきましょう。 					
科目のねらい・授業目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 語学力を高めて国際感覚を養うとともに、英会話によるコミュニケーション技術を習得する。 					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	Unit 1: [初診受付の流れ①／症状]		読解、聴解 役割演習 等		
2 回目	Unit 2: [初診受付の流れ②／初診登録]		同上	小テスト 1	
3 回目	Unit 3: [初診受付の流れ③／保険]		同上	小テスト 2	
4 回目	Unit 4: [患者を案内する／診療科の名称]		同上	小テスト 3	
5 回目	Unit 5: [患者の症状を聞く／風邪症状]		同上	小テスト 4	
6 回目	Unit 6: [薬の処方／服薬指示の表現]		同上	小テスト 5	
7 回目	Unit 7: [診察の流れ／アレルギー症状]		同上	小テスト 6	
8 回目	Unit 8: [外科診療の流れ／痛み]		同上	小テスト 7	
9 回目	Unit 9: [問診の流れ／生活習慣]		同上	小テスト 8	
10 回目	Unit 10: [診察前計測／計測の表現]		同上	小テスト 9	
11 回目	Unit 11: [患者の検査／精密検査]		同上	小テスト 10	
12 回目	Unit 12: [検査結果の説明／数値]		同上	小テスト 11	
13 回目	Unit 13: [入院／健康指導]		同上	小テスト 12	
14 回目	Unit 14: [入院前の説明／入院の表現]		同上	小テスト 13	
15 回目	Unit 15: [退院後のアドバイス／健康維持]		同上	小テスト 14	
16 回目	試験				
評価方法 毎回の小テスト 50% + 期末試験 50%					
使用するテキスト 樋口晶彦/John Tremarco 著 『Check-Up! Basic English for Nursing 基礎から学ぶやさしい看護英語』 (金星堂、2023 年)					
参考文献 特になし					

科目名		講義担当		所属	
人間関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 人間関係の基礎的理論を習得する 1, 人間関係の基礎とコミュニケーション 2, 看護における人間関係 3, カウンセリング技法の基礎					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	関係の主体者としての「私」			講義(一部演習)	
2回目	人間の存在性について				
3回目	出会いと関係性にする理解				
4回目	コミュニケーションの基本的理解				
5回目	傾聴とロールプレイ				
6回目	うつ状態にある人への対応				
7回目	希死念慮のある人への対応				
8回目	交流分析の理解				
9回目	交流分析の理解				
10回目	患者と看護師の人間関係				
11回目	患者と看護師の人間関係				
12回目	カウンセリング技法の基礎				
13回目	カウンセリング技法の基礎				
14回目	人間関係における病理				
15回目	まとめ				
16回目	試験				
評価方法					
試験とレポート					
使用するテキスト					
授業中に資料を配付する					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
文学		佐藤 雅彦		JET 日本語集中講座事務局 秋田大学高等教育グローバルセンター	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
授業は予習を前提としてすすめます。					
科目のねらい・授業目標					
深い洞察力と豊かな感性を育て、読解力を育てる。 看護の対象である人間を理解し、人を思いやれる豊かな人間性を育てる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	ガイダンス			講義・演習	
2回目	多様な文学作品などに接する 文章などから情報を的確に読み取る			講義・演習	
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	期末テスト				
評価方法					
評価は以下の観点から行います。 小テスト 40%、期末テスト 40%、授業への参加度 20%					
使用するテキスト					
授業中に資料を配付します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
心理学		森 和彦		前職 秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>受講上の留意点 授業の進め方等は、シャトルカードの返還等による前回の補足説明→講義の聴取によるノート作成→シャトルカードの提出→ノートによるテキスト編集(放課後)の手順で進めます。看護師養成のための基礎科目であるため、聴解力、読解力、集中力を必要とするかなり厳しい授業になります。講義の場に座っているだけでは受講とは言えません。積極的な取り組みを期待します。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標 生涯発達心理学を軸に、看護師にとって必要な心理学的知見を概観し、自己研鑽・現場実践に役立つよう理解する。 * 特に援助専門家とクライアントの心理的レジリエンスの視点は重要</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	「心の科学」についての理解			講義	
2回目	生涯発達の視点・背景を理解する。			講義	
3回目	発達障害の概念と「できる/できない」の捉え方			講義	
4回目	気質(特性論的理解と支援の在り方)とその発達			講義と演習	
5回目	ヒトのコミュニケーションの発達過程の理解			講義	
6回目	親子のコミュニケーション(1)			講義	
7回目	親子のコミュニケーション(2)			講義	
8回目	幼児からの自己中心性と意図の読み取りの発達についての理解			講義	
9回目	遊びの発達			講義	
10回目	青年期の特徴と発達課題の理解			講義	
11回目	恋愛・結婚・子育ての心理学的知見を学ぶ。			講義	
12回目	加齢と成熟発達の心理学的知見を学ぶ。			講義と演習	
13回目	自己認知・対人認知のゆがみを理解する。			講義	レジリエンスの背景
14回目	ヒトの選択構造化戦略について理解する。			講義	レジリエンスの行動戦略
15回目	生きる力(Key Competency)の発達理解 ストレスマネジメントとLife Skillの獲得			講義	レジリエンスの技法
16回目	試験			ペーパー試験	
<p>評価方法 筆記課題試験で成績は決まる。理解の確認など必要に応じて課題レポート提出およびノート提出を求める。試験も提出物も最低出席数も合格必要条件課題であるが、合格十分条件ではない。また答える量や枚数の多さも合格十分条件にならない。</p>					
<p>使用するテキスト 対人援助職のための発達心理学 北樹出版 ISBN978-4-7793-0657-0</p>					
<p>参考文献 参考書:参考プリントなど随時紹介・配付する。 「心理学小辞典」は予習、復習、試験勉強に大変役立ちます。各自自分に分かり易い辞典を手元に置くようにしてください。</p>					

科目名		講義担当		所属	
カウンセリング		濱田 拓		フリーランス	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
<p>・専門知識の修得のみならず、演習を通して対人技術の向上に励みます。 各種演習についての主体的学びの姿勢も評価の対象といたします。</p>					
科目のねらい・授業目標					
<p>・カウンセリング的なものの見方、人との接し方について学び、さらに他者理解と自己理解を深める事、受容・共感的な態度で援助できるように対人技術を磨く事を目的とする。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	カウンセリングの基礎と演習①			講義・演習	
2回目	カウンセリングの基礎と演習②			〃	
3回目	グループダイナミクスと見立て①			〃	
4回目	グループダイナミクスと見立て②			〃	
5回目	集団精神療法とグループワーク①			〃	
6回目	集団精神療法とグループワーク②			〃	
7回目	自己理解と他者理解①			〃	
8回目	自己理解と他者理解②			〃	
9回目	傾聴とアセスメント①			〃	
10回目	傾聴とアセスメント②			〃	
11回目	チーム医療と集団療法①			〃	
12回目	チーム医療と集団療法②			〃	
13回目	個人療法と集団療法①			〃	
14回目	個人療法と集団療法②			〃	
15回目	まとめ			〃	
16回目	試験				
評価方法					
<p>1. 2/3以上の出席 2. 演習での積極性や主体性 3. 最終試験の60以上合格</p>					
使用するテキスト					
<p>看護カウンセリング論～看護師による「カウンセリング事例」集 北島謙吾編 学術研究出版</p>					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
社会学		和泉 浩		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>看護の対象である人間の社会的行為、社会関係、社会集団、社会の構造を学び、社会的存在として理解する。家族についての基礎的理解と家族が直面している現実問題について理解する。</p> <p>1, 社会の概念 2, 社会を形成する基礎的要素 3, 社会集団と社会行為 4, 家族のあり方と現実問題</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	社会学の考え方			講義	
2回目	社会学誕生の背景			講義	
3回目	代表的な社会学者の社会理論			講義	
4回目	社会調査と統計			講義	
5回目	健康格差、平等をめぐる問題			講義	
6回目	医療と健康、看護の社会			講義	
7回目	生命倫理(バイオエシックス)と社会			講義	
8回目	試験				
	各テーマを1回から3回の授業で扱いますが、授業の進行具合により内容を変更することがあります。				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
授業内容に関連する文献等をそのつど指示します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
倫理学		田子 多津子		前職 慶応義塾大学言語文化研究所	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、教科書の該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ・授業中に随時内容についての意見を求めます。 					
科目のねらい・授業目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生と死に関する多様な観点を知る。 2. 生命倫理の基本的問題に関する知識を身につける。 3. 生命倫理に関する問題について知識をもとに議論できる。 					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	いのちの終わりは誰が決めるのか			講義	教科書第1章
2回目	子どもの医療は誰が決めるのか			講義	第2章
3回目	判断能力は誰が決めるのか			講義	第3章
4回目	いのちの質は誰が決めるのか			講義	第4章
5回目	双子の生死は誰が決めるのか			講義	第5章
6回目	いのちの「優先順位」は誰が決めるのか			講義	第6章
7回目	いのちの「始まり」は誰が決めるのか			講義	第7章
8回目	試験				
評価方法 試験 60%、提出課題 30%、振り返りカード 10%					
使用するテキスト 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』ちくまプリマー新書 167 2011年 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波新書、2011(課題図書)					
参考文献 授業中に適宜紹介する。					

科目名		講義担当		所属	
スポーツ科学		松下 翔一		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 スポーツ実践に適した服装や履物を準備すること。					
科目のねらい・授業目標 健康と生活において、生活習慣の中の運動について重要性を理解し、健全な心身を養う。 1. 理論と方法 2. 技術の習得					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回～7回	学習目標を達成するために、必要な施設・用具の調った各種スポーツ種目(バレーボール、卓球、バドミントン等)をゲーム中心に実践する。また、準備・整理運動のり重要性を理解させ、自己やケガの防止に努める。		講義		
	グループづくり 各種スポーツ種目のルールおよび技能についての学習		実技および演習		
	各種スポーツ種目の実践				
8回目	まとめ		講義		
評価方法 出席状況(50%)、授業時の活動状況(30%)、学習意欲(20%)					
使用するテキスト 必要に応じてプリントを配布する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
家族関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
特になし					
科目のねらい・授業目標					
1, 看護の対象としての家族の基本概念について理解する。 2, 家族看護の基本概念と家族看護のプロセスについて理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	家族とは何か(家族構造と機能の理解)			講義	
2回目	発達する家族(家族のライフサイクル)			講義	
3回目	システムとしての家族			講義	
4回目	家族を理解するポイント			講義	
5回目	家族ストレスと危機の理解と対応			講義	
6回目	集団としての家族と役割構造			講義	
7回目	家族内コミュニケーションの理解			講義	
8回目	家族療法の基本的理解			講義	
9回目	家族療法の理論			講義	
10回目	家族とパートナーシップとセルフケア			講義	
11回目	家族アセスメント			講義	
12回目	家族と地域・家族と文化			講義	
13回目	実践例の理解 DV/子どもケア/心の問題			講義	
14回目	実践例の理解 臓器提供/壮年期の癌/難病			講義	
15回目	実践例の理解 高齢社会後/終末期			講義	
16回目	試験				
評価方法					
試験(70%)+レポート(20%)+出席状況(10%)					
使用するテキスト					
山崎あけみ他:家族看護学:南江堂					
参考文献					

專門基礎分野

科目名 看護における ホスピタリティ		講義担当 皆川 千年		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
<p>1.業種を問わず、これまでの顧客体験から、</p> <p>1)心地よいと感じた接客サービス</p> <p>2)嫌な思いをした接客サービスについて自分の思いや考えをまとめて授業に臨みましょう。</p> <p>2.学習効果を高めるため演習を実施します。</p> <p>3.臨地実習においても活用していきますので積極的に参加しましょう。</p>					
科目のねらい・授業目標					
<p>1.接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。</p> <p>医療組織の一員としての意識を持ち、療養生活を支える心と技術を習得する</p>					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	ホスピタリティに関する基礎的知識 1)看護師としての心を養う		講義		
2回目	2)身に付けておきたい基本マナーと接遇		講義・演習		
3回目	医療安全と接遇 1)看護師だからこそ必要なマナーと接遇		講義・演習		
4回目	自分と患者を守るコミュニケーション 1)コミュニケーションスキルを身に付けよう		講義・演習		
5回目	生活場面における接遇の基本 1)地域・在宅訪問時のお作法		講義・演習	在宅実習室使用	
6回目	実習場面でのホスピタリティ 1)これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（基礎）		講義・演習		
7回目	実習場面でのホスピタリティ 1)これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（実践） 2)ポートフォリオ作成		講義・演習	ユニフォームを着用し参加のこと	
8回目	試験 まとめ				
評価方法 筆記試験(80%)＋ポートフォリオ作成(10%)＋演習参加状況(10%)					
使用するテキスト 看護学生の勉強と生活 まるごとナビ 自律的に過ごすための23のレッスン. 日本看護協会出版会					
参考文献 随時紹介					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働き I		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>受講上の留意点</p> <p>教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いたくらいではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。</p> <p>1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
2回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
3回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
4回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
5回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
6回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
7回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
8回目	身体の支持と運動(関節)			講義	
9回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
10回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
11回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
12回目	血液			講義	
13回目	免疫			講義	
14回目	免疫			講義	
15回目	免疫			講義	
16回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院</p>					
<p>参考文献</p> <p>トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)</p>					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅡ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>受講上の留意点</p> <p>教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いたくらいではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。</p> <p>1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	循環器			講義	
2回目	循環器			講義	
3回目	循環器			講義	
4回目	呼吸器			講義	
5回目	呼吸器			講義	
6回目	呼吸器			講義	
7回目	消化器			講義	
8回目	消化器			講義	
9回目	消化器			講義	
10回目	泌尿器			講義	
11回目	生殖器			講義	
12回目	生殖器			講義	
13回目	内分泌			講義	
14回目	内分泌			講義	
15回目	内分泌			講義	
16回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院</p>					
<p>参考文献</p> <p>トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)</p>					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅢ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いただけではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。</p> <p>1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	神経(中枢神経)			講義	
2回目	神経(中枢神経)			講義	
3回目	神経(末梢神経)			講義	
4回目	神経(末梢神経)			講義	
5回目	神経(自律神経)			講義	
6回目	感覚器・皮膚			講義	
7回目	感覚器・皮膚			講義	
8回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院</p>					
<p>参考文献</p> <p>トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)</p>					

科目名	講義担当		所属		
形態機能学	佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校		
履修時期	1 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
テキストの講義該当箇所を一読し、予習しておくこと。別途事前学習が必要な場合は前もって提示する。					
科目のねらい・授業目標					
人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。 看護実践に生かすために身体の作用機序・調整機構など正常な身体の基礎知識を理解する。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	認識し判断し記憶する…神経系① 中枢神経系(脳・脊髄)		講義	教科書 資料	
2 回目	情報を伝える…神経系② 末梢神経系(脳神経・脊髄神経・自律神経)		講義	教科書 資料	
3 回目	動く…運動器① 骨格・骨格筋・関節、反射・随意運動のメカニズム		講義	教科書 資料	
4 回目	動く…運動器② 筋の収縮機構、日常生活での基本的動きと骨・骨格筋・関節との関連		講義	教科書 資料	
5 回目	話す・見る・聞く・触る…感覚器 眼と視覚、耳と聴覚、鼻と嗅覚、舌と味覚、皮膚と触覚		講義	教科書 資料	
6 回目	食べる…消化器① 嚥下のしくみ、口腔、食道、胃、小腸、大腸		講義	教科書 資料	
7 回目	食べる…消化器② 肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、消化・吸収のしくみ		講義	教科書 資料	
8 回目	流通の媒体…血液 血液の成分と機能、血液凝固・免疫系		講義	教科書 資料	
9 回目	流通の原動力…循環器 心臓、血管、リンパ、血圧の調節のしくみ		講義	教科書 資料	
10 回目	息をする…呼吸器 外呼吸と内呼吸、ガス運搬、呼吸運動と調節のしくみ		講義	教科書 資料	
11 回目	トイレに行く…泌尿器① 腎臓の機能、尿の生成と再吸収、排泄のしくみ		講義	教科書 資料	
12 回目	トイレに行く…泌尿器② 浸透圧と体液量調節		講義	教科書 資料	
13 回目	ホルモンのはたらき…内分泌系① ホルモンの作用機序、全身の内分泌腺とその作用		講義	教科書 資料	
14 回目	ホルモンのはたらき…内分泌系② ホルモンによる恒常性維持のしくみと調節		講義	教科書 資料	
15 回目	子どもを産む…生殖器 生殖器の機能と性周期、生殖・発生		講義	教科書 資料	
16 回目	試 験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院					
参考文献 菱沼典子、形態機能学 生活行動からみるからだ、日本看護協会出版会 菱沼典子、形態機能学ワークブック 体験して考える からだのいとなみ 日本看護協会出版会					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 生化学		講義担当 塚田 三香子		所属 前職 聖霊女子短期大学 生活文化科	
履修時期	1年前・後期	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点 ・レポート(問題演習)を必ず提出すること ・レポート(問題演習)の誤りを復習すること					
科目のねらい・授業目標 1. 生命現象が化学反応であることを理解する。 2. 生命の維持に必要な栄養素の代謝について全体像を理解する 3 遺伝情報発現の仕組みを理解する					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	生体を構成する分子 細胞の構造と機能		講義	教科書第 1 章	
2 回目	タンパク質の構造		講義	教科書第 7 章	
3 回目	糖質の構造		講義	教科書第 3 章	
4 回目	脂質の種類と構造		講義	教科書第 5 章	
5 回目	酵素と補酵素・ビタミン		講義	教科書第 2 章	
6 回目	糖質とエネルギーの代謝(1)		講義	教科書第 4 章	
7 回目	糖質とエネルギーの代謝(2)		講義	教科書第 4 章	
8 回目	タンパク質の代謝		講義	教科書第 8 章	
9 回目	脂質の代謝		講義	教科書第 6 章	
10 回目	遺伝の仕組み 体細胞分裂と減数分裂		講義	教科書第 10 章	
11 回目	核酸の構造		講義	教科書第 10 章	
12 回目	DNA の複製		講義	教科書第 11 章	
13 回目	DNA から mRNA への転写		講義	教科書第 12 章	
14 回目	mRNA からタンパク質への翻訳		講義	教科書第 13 章	
15 回目	ホルモンとその機序		講義	教科書第 14 章	
16 回目	試験				
評価方法 ・レポート(問題演習)50%、筆記試験 50%					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学					
参考文献 不足する資料があればその都度配付					

科目名		講義担当		所属	
栄養学		新田 智子		しみず内科 糖尿病・甲状腺クリニック	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための専門知識を学ぶ。 1. 栄養とは 2. 栄養素の役割 3. 栄養所要量とエネルギー代謝 4. 食事療法の基礎					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき			講義	
2回目	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	
3回目	体内のエネルギーバランス 食品と食事			講義	
4回目	栄養ケア・マネジメント			講義	
5回目	ライフステージと栄養			講義	
6回目	臨床栄養			講義	
7回目	臨床栄養			講義	
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院					
参考文献					

科目名 微生物学		講義担当 原田 誠三郎		所属 前職 秋田県総合保健事業団	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 予習・復習を十分に行うこと。					
科目のねらい・授業目標 微生物の基礎、感染とその防御および病原微生物に関連する事項について理解する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	微生物と微生物学 細菌の性質			講義	
2回目	細菌の性質 ウイルスの性質			講義	
3回目	真菌の性質 感染と感染症			講義	
4回目	感染と感染症 感染に対する生体防御機構			講義	
5回目	感染に対する生体防御機構			講義	
6回目	感染に対する生体防御機構 滅菌と消毒、感染症の検査と診断			講義	
7回目	感染症の検査と診断 感染症の治療			講義	
8回目	感染症の治療 感染症の現状と対策			講義	
9回目	感染症の現状と対策 病原細菌と細菌感染症			講義	
10回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
11回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
12回目	病原細菌と細菌感染症、 病原ウイルスとウイルス感染症			講義	
13回目	病原ウイルスとウイルス感染症			講義	
14回目	病原ウイルスとウイルス感染症 病原真菌と真菌感染症 寄生虫と衛生動物			講義	
15回目	寄生虫と衛生動物			講義	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学					
参考文献 参考図書 標準微生物学第15版 (編集) 錫谷達夫、松本哲哉 医学書院					

科目名		講義担当		所属	
病態学総論		川村 公一		早稲田大学先進理工学部	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
<p>病気は「得体のしれないもの」ではない。体の中に正常とは異なる出来事が生じている。その病気にはそれなりに流れがあって、その振る舞いも予測ができる。この体の中に起きている病気の山を眺め、大きな道筋をつかむ。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	<p>講義の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気のとくに、どのようなことが体の中に起きているか把握ができれば、患者との対応が変わってくるはずである。この病気の成り立ちについて画像・イラストなどを使って説明をする。 2. 授業内容のパワーポイントのデータは事前に配付する。図書館にある参考書などを活用して、復習を主体とする自主学習を促す。 3. 質問は、随時歓迎する。勿論授業中でもオーケーである。 <p>講義の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の成り立ち、生活習慣病 2. 壊死、創傷治癒 3. 血栓と塞栓 4. 浮腫の原因 5. 感染症と炎症 6. 心筋梗塞と脳卒中 7. 腫瘍の発生と分類 			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験（学習課題は講義で提示する）					
使用するテキスト					
<p>参考図書</p> <p>土居健太郎、系統看護学講座 病態生理学(医学書院)</p> <p>大橋健一他、系統看護学講座 病理学(医学書院)</p> <p>深山正久、はじめの一步のイラスト病理学(羊土社)など</p>					

科目名 呼吸器の病態論		講義担当 伊多波 未来 福井 伸		所属 市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 ・呼吸器障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	1 呼吸器系の基礎		講義	伊多波未来	
2回目	1)呼吸器の構造と機能				
3回目	2)症状とその病態について				
4回目					
5回目	2 呼吸器系の臨床		講義	福井 伸	
6回目	1)診断・検査・治療・処置について				
7回目	(1)検 査 画像・内視鏡・生検				
8回目	(2)治療・処置 吸入療法・酸素療法・ 胸腔ドレナージ・手術療法				
9回目					
10回目					
11回目	2)疾患の理解		講義	福井 伸	
12回目	(1)感染症				
13回目	(2)間質性肺疾患・起動疾患・呼吸器不全・肺腫瘍・ 胸膜疾患				
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験によるが授業態度も加味する。 試験は2回行う。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2]呼吸器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
循環器の病態論		阿部 芳久		市立秋田総合病院	
履修時期	1年次前期・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
循環器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1 心臓の解剖と生理 特に肉眼的解剖 (この理解があって初めて次のステップへ進める。) 2 虚血性心疾患 1) 動脈硬化の成因(危険因子とその管理を含む) 2) 狭心症の病態、診断、治療 3) Acute Coronary Syndrome(急性冠症候群)の病態、診断、治療 3 不整脈 1) 心臓刺激伝導系の理解と心電図上の意味 2) 徐脈性不整脈の病態、診断、治療 3) 頻脈性不整脈の病態、診断、治療 4) 致死性不整脈の理解 4 高血圧 1) 血圧とは何か? 2) 血圧の正しい測り方 3) 高血圧の治療はなぜ必要か 5 心不全 右心不全、左心不全、両心不全の病態、基礎疾患の理解 6 血管疾患 閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤、肺梗塞の理解 7 過去の国家試験問題の解説			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目					試験
評価方法					
筆記試験によるが授業態度も加味する					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
消化器の病態論		松澤尚徳 中根 邦夫 辻 剛俊 津田 聡子 菅原 佳恵		市立秋田総合病院	
履修時期	1年次前期・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
消化器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1 消化器系の機能障害の基礎 1)栄養の摂取・吸収の障害 2)消化器機能の障害 2 消化器系の臨床 1) 特有な症状:嚥下困難・食欲不振・胸やけ・嘔吐・下血・黄疸 2)特有な検査:造影・内視鏡・生検・超音波 3)特有な治療・処置:薬物療法・食事療法・手術療法・放射線療法 3 消化器疾患の症状・検査 1)上部消化器疾患 食道癌・胃癌 2)下部消化器疾患 イレウス・大腸癌・直腸癌 3)胆嚢 胆嚢炎・胆嚢癌 4)肝臓 肝臓炎・肝臓癌 5)膵臓 膵炎・膵癌			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
腎・泌尿器の病態論		石田 俊哉		市立秋田総合病院	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
人体の構造、人体の機能、循環器の病態を理解しておくこと					
科目のねらい・授業目標					
排泄機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	I 腎 (15時間) 1)腎の解剖 2)腎の生理・働き 3)腎機能検査および腎機能障害時の症状尿・血液・画像検査など 4)腎障害時の特有な疾患 ①急性腎不全 ②慢性糸球体腎炎 ③慢性腎不全 5)治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 II 泌尿器・生殖器 (15時間) 特有な疾患のポイントを国家試験などから絞り込んで講義する。 1. 泌尿器機能障害の病態生理 1)暴行腫瘍・膀胱癌・腎盂尿管癌・腎癌 2)尿路の疾患・失禁・神経因性膀胱 3)結石 2. 生殖器機能障害の病態生理 1)前立腺肥大症・前立腺癌・精巣腫瘍 2)性器の腫瘍・不妊症 3. 症 状 ・勃起障害・生殖器異常 4. 検 査 ・生検・外内診 5. 治療・処置 ・化学療法・放射線療法・ホルモン療法・手術療法			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目					
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院					
参考文献					

科目名 内分泌・代謝・造血の病態論		講義担当 三浦 岳史 亀岡 吉弘		所属 市立秋田総合病院 秋田赤十字病院	
履修時期	2年次前期・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 内部環境調節機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	内分泌・代謝（20時間） 1 内分泌器官の基礎 2 代謝器官の基礎 3 体液調節の障害と治療・検査 4 自律神経機能の障害と治療・検査 5 内分泌機能の障害と治療・検査 甲状腺疾患・甲状腺クリーゼ 1)症 状 頻脈・発汗・体重減少・全身倦怠感 2)検 査 画像診断 3)治 療 薬物療法・食事療法・放射線療法・手術療法 6 代謝機能の障害と治療・検査 1)糖尿病(病態・合併症・治療) 2)脂質異常症 3)肥満とメタボリックシンドローム 4)尿酸値代謝異常 造血（10時間） 1 造血のしくみと疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 1)造血のしくみ 2)血液疾患のメカニズム 3)血液疾患の治療 2 血液疾患の特徴と検査・治療について理解する。 1)主要症状 貧血・出血傾向・脾腫・リンパ節腫脹 2)検 査 末梢血検査・マルク・リンパ節生検 3)診断・治療 化学療法・造血幹細胞移植			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
脳神経の病態論		石川 達哉		市立秋田総合病院	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
脳神経機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	<p>脳・神経・筋肉疾患のうち代表的な疾患につき、テキストを中心にプリントや視聴覚機器を用いて講義する。</p> <p>1. 症状とその病態生理 1)意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・言語障害</p> <p>2. 検査と治療 1)神経学的検査 2)画像 3)手術療法 4)薬物療法 5)リハビリテーション療法 6)化学療法・放射線療法</p> <p>3. 疾患の理解 1)脳血管障害 2)脳変性疾患 3)神経筋疾患 4)脳腫瘍 5)膠原病</p>			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
運動器の病態論		柏倉 剛		藤原記念病院	
履修時期	2年次前期	単位数	1 単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
運動機能障害の特徴と治療・検査について理解する					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	運動器の構造と機能		講義		
2 回目	症状とその病態生理		講義		
3 回目	診断・検査と治療・処置 (1)		講義		
4 回目	" (2)		講義		
5 回目	疾患の理解 (1)		講義		
6 回目	" (2)		講義		
7 回目	" (3)		講義		
8 回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
生殖器の病態論		軽部 裕子		市立秋田総合病院	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 生殖機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1. 女性生殖器をつかさどる器官の機能の障害 2. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過と起こりやすい異常について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	女性生殖器の構造、機能			講義	
2回目	女性生殖器疾患の理解			講義	
3回目	女性生殖器疾患の理解			講義	
4回目	出生前からのリプロダクティブヘルス			講義	
5回目	妊娠期 身体的特性			講義	
6回目	妊婦と胎児アセスメント、疾患			講義	
7回目	分娩期・産褥期特性、疾患			講義	
8回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験(10割)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
小児の病態論		武田 修		市立秋田総合病院	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
小児の特徴を理解し、小児疾患各論を一通り学習する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	「遺伝子・染色体の異常と形態異常」 「新生児の特徴と疾患」			スライドによる 講義	
2回目	「消化器機能障害」 「呼吸器機能障害」			〃	
3回目	「循環器機能障害」 「アレルギー性疾患」			〃	
4回目	「造血機能障害・癌」 「代謝・内分泌機能障害」			〃	
5回目	「腎・泌尿器機能障害」 「免疫疾患・膠原病」			〃	
6回目	「脳神経機能障害」 「神経領域の疾患」			〃	
7回目	「感染症」			〃	
8回目	試験			筆記	
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神の病態論		藤枝 信夫		医療法人 清風会 清和病院	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
精神の健康障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	精神の機能と障害① (意識・知識など)			講義	
2回目	精神の機能と障害② (知覚・思考・感情・意欲など)			講義	
3回目	心因性精神障害 神経症性障害・心因反応			講義	
4回目	内因性精神障害① 統合失調症			講義	
5回目	内因性精神障害② 気分障害			講義	
6回目	外因性精神障害① 器質性・症候性精神障害			講義	
7回目	外因性精神障害② 物質関連障害・睡眠-覚醒障害			講義	
8回目	児童・青年期精神医学 (パーソナリティ障害・発達障害を含む)			講義	
9回目	精神科治療論① 身体療法(薬物・電気)			講義	
10回目	精神科治療論② 精神療法・社会療法			講義	
11回目	心理検査と心理療法			講義	
12回目	精神保健福祉士(PSW)と精神保健福祉法			講義	
13回目	精神科臨床の実際			講義	
14回目 15回目	映画から学ぶ①②			ビデオ レポート	
16回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版					
参考文献					

科目名 薬理学		講義担当 佐々木 修		所属 前職 中通総合病院 薬剤部	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 基本的薬物の薬理作用とその適応・有害作用など薬物療法に関する基礎知識を学び、薬物療法に重要な看護師の役割を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	薬理学総論①			講義	
2回目	薬理学総論②			講義	
3回目	抹消神経系疾患に作用する薬物①			講義	
4回目	抹消神経系疾患に作用する薬物②			講義	
5回目	中枢神経系疾患に使用する薬物①			講義	
6回目	中枢神経系疾患に使用する薬物②			講義	
7回目	循環器系疾患に使用する薬物①			講義	
8回目	循環器系疾患に使用する薬物②			講義	
9回目	抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬			講義	
10回目	呼吸器、消化器系疾患に使用する薬物			講義	
11回目	がん・痛みに使用する薬物			講義	
12回目	生殖器・泌尿器系、感覚器疾患に使用する薬物			講義	
13回目	物質代謝に作用する薬物			講義	
14回目	感染症に使用する薬物、消毒薬			講義	
15回目	その他、まとめ			講義	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院					
参考文献 特になし					

科目名 健康科学		講義担当 伊藤 善信		所属 前職 秋田市保健所	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 現代人の健康は、様々な人々の職業活動の上に成り立っているという認識を育て、さらには現代人の健康に科学の果たしている役割を理解してもらう。					
科目のねらい・授業目標 健康に生活することの大切さや健康保持・増進及び身体環境の基礎を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	人の心身と健康を知る～その1～			講義	
2回目	人の心身と健康を知る～その2～			講義	
3回目	健康の基礎～その1～			講義	
4回目	健康の基礎～その2～			講義	
5回目	健康の基礎～その3～			講義	
6回目	社会と健康			講義	
7回目	健康観と健康に関する社会の仕組み			講義	
8回目	試験				
評価方法 筆記試験、出席状況					
使用するテキスト 健康科学 改訂第3版 南江堂					
参考文献 ① イラスト 健康管理概論 第5版 東京教学社 ② 国民衛生の動向 Vol69 No.9 2022/2023 厚生労働統計協会					

科目名 公衆衛生学		講義担当 伊藤 善信		所属 前職 秋田市保健所	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 疾病構造の変化や高齢人口の増加により、人々を取り巻く生活環境や医療は急激に変化し、適切に対応することが課題となっている。「健康」や「公衆衛生」の概念の変遷を知ることは、これからの医療・健康福祉サービスを充実させるための不可欠な基礎知識である。様々な環境因子や生活習慣が及ぼす人への影響を学び、予防することの大切さや公衆衛生活動が人々の健康にどのように寄与しているのかを知る。					
科目のねらい・授業目標 1. 人間を総合的に捉え、人々の健康と質を高めるための基礎的な能力を身につける。 2. 多職種と連携、協力し、少子高齢多死社会における健康の向上に寄与できる能力を身につける。 3. 「健康」や「公衆衛生」の概念について説明できる。 4. 公衆衛生活動が人々の健康にどう寄与しているか、具体例をあげて説明できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	公衆衛生の基本的な考え方			講義	
2回目	公衆衛生の体系と手法			講義	
3回目	公衆衛生活動の実践(その1)			講義	
4回目	公衆衛生活動の実践(その2)			講義	
5回目	健康危機管理			講義	
6回目	環境と健康			講義	
7回目	包括的な地域保健			講義・議論	
8回目	試験				
評価方法 筆記試験、出席状況					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2 医学書院					
参考文献 ① 国民衛生の動向 Vol70 N0.10 2023/2024 厚生労働統計協会 ② 医療情報科学研究所 『公衆衛生がみえる(最新版)』 メディックメディア					

科目名 社会福祉		講義担当 小 出 幸 博 伊 藤 梅 香		所属 前職 社会福祉法人ファミリーケアサービス 市立秋田総合病院	
履修時期	3年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>受講上の留意点 新聞やマスメディアに関心を払い、人と社会を取り巻く現代社会の問題と課題、支え手の役割を考えてください。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標 社会保障と社会福祉の概念と課題と課題を学び、社会福祉制度とサービスを理解する。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	社会保障制度 概念・目的・機能・体系・内容			講義	小出
2 回目	社会福祉の法制度・財政、組織と実施体制			講義	小出
3 回目	現代社会の変化			講義	小出
4 回目	社会保障・社会福祉の動向			講義	小出
5 回目	介護保障制度～創設の背景と概要			講義	小出
6 回目	介護保障制度～保険給付と課題			講義	小出
7 回目	所得補償の概要			講義	小出
8 回目	公的扶助論			講義	小出
9 回目	社会福祉の分野～障害者福祉制度			講義	小出
10 回目	社会福祉と医療保障			講義・グループワーク	伊藤
11 回目	社会福祉の分野～児童家庭福祉と少子化			講義	小出
12 回目	介護保障制度と医療			講義・グループワーク	伊藤
13 回目	社会保障制度／公的扶助 福祉サービスと社会福祉の歴史			講義・グループワーク	伊藤
14 回目	社会福祉の歴史			講義	小出
15 回目	社会福祉実践と医療・看護			講義・グループワーク	伊藤
16 回目	試験				小出
<p>評価方法 出席状況、筆記試験で評価する 修了試験：小出 7 割 伊藤 3 割</p>					
<p>使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野「社会保障・社会福祉」健康支援と社会保障制度[3] 医学書院</p>					
<p>参考文献 新聞・ネットニュース</p>					

科目名		講義担当		所属	
チーム医療論		成 田 雪 美		医療法人運忠会 土崎病院	
履修時期	3年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 ・チーム医療の概念を学び、多くの専門職種との連携や協働について理解する ・患者中心の統合的で良質な医療の提供について学ぶ					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	チーム医療とは			講義・グループワーク	
2回目	専門職とチーム医療			〃	
3回目	チーム医療における看護職の役割			〃	
4回目	チーム医療と倫理			〃	
5回目	チーム医療とコミュニケーション			〃	
6回目	チーム医療の実践(医療安全・感染管理より)			〃	
7回目	チーム医療の実際(様々な場面)			〃	
8回目	試験			〃	
評価方法 授業への参加と態度、レポート(テスト)					
使用するテキスト 実践チーム医療論. 水本清久他 編著. 医歯薬出版株式会社					
参考文献					

科目名 関係法規 I		講義担当 鈴木 淳子		所属 あきた彩ステーション	
履修時期	3年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習して臨むこと。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標 生活に関連した基本的な法令について概念を理解し、社会における看護を取り巻く法規範・諸制度を理解する。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	医療に関する法の概念			講義	
2回目	医療法			講義	
3回目	医療・福祉に関する資格			講義	
4回目	感染症に関する法令			講義	
5回目	薬事法			講義	
6回目	社会福祉関連法規			講義	
7回目	労働関連法規・環境法			講義	
8回目	試験・まとめ				
<p>評価方法 筆記試験・授業態度</p>					
<p>使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度[4] 看護関係法令 医学書院</p>					
<p>参考文献</p>					

科目名 関係法規Ⅱ		講義担当 菊地 富貴子		所属 公益社団法人秋田県看護協会 訪問看護ステーションあきた	
履修時期	3年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護職の職務の基盤となる法規および諸制度について理解し、臨床において正しく職務を遂行するための根拠や判断基準としてそれらを習得する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	看護法について理解する			講義	
2回目	看護法について理解する			講義	
3回目	保健衛生法について理解する			講義	
4回目	保健衛生法について理解する			講義	
5回目	社会保険法について理解する			講義	
6回目	社会保険法、福祉法について理解する			講義	
7回目	福祉法について理解する			講義	
8回目	試験 まとめ				
評価方法 全課程の講義終了後の試験と、受講態度により評価					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度[4] 看護関係法令 医学書院					
参考文献					

專門分野

科目名	講義担当	所属			
看護学概論	皆川 千年	秋田市医師会立秋田看護学校			
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>受講上の留意点 看護を学ぶ上で基盤となる科目です。授業を通して看護への興味・関心を高められるよう前向きに取り組みましょう。</p> <p>演習や課題レポートは調べ学習を行い自分自身の言葉で表現することを目指しましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標 看護の基本となる概念を理解し、広い視野で看護の機能、役割を理解する。看護理論や看護に期待されることを学び看護師を目指すものとしての自己の課題を見出す。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	ガイダンス 看護とは(看護の変遷、定義)			講義	使用テキスト①②
2回目	看護の責務			講義	使用テキスト①② ポストテスト
3回目	看護の継続性と連携			講義	使用テキスト①② ポストテスト
4回目	看護の変遷①ナイチンゲールの生涯と功績			講義 演習	使用テキスト①③ ポストテスト
5回目	看護の変遷②おもな理論家とその概念				
6回目	年表を作成してみよう			発表	使用テキスト①③
7回目	看護の対象とその理解 人間とは			講義	使用テキスト①③
8回目	ライフサイクルと健康 (エリクソン、ハヴィガーストの発達理論)			講義	使用テキスト①
9回目	健康と病気 健康とは、健康の定義、ヘルスプロモーション			講義	使用テキスト①③
10回目	職業としての看護			講義	使用テキスト①
11回目	看護職養成制度 (基礎教育・継続教育、キャリア形成)			講義	使用テキスト①②
12回目	看護をとりまく制度と政策			講義	使用テキスト①②
13回目	ヘンダーソン看護論を読み解く①			講義 演習	使用テキスト④ 使用テキスト④
14回目	ヘンダーソン看護論を読み解く②				
15回目	看護を学ぶ学生としての自己の課題			講義	課題レポート
16回目	試験			筆記試験	
<p>評価方法 ポストテスト5点×3回、発表5点、課題レポート10点、筆記試験70点 (ポストテストを欠席した場合、発表を欠席した場合は原則としてそれぞれ0点)</p>					
<p>使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学総論. 医学書院 ②看護職の基本的責務 日本看護協会出版会 ③看護覚え書-看護であること 看護でないこと- 現代社 ④看護の基本となるもの 日本看護協会出版会</p>					
<p>参考文献 看護学生の勉強と生活 まるごとナビ 自律的に過ごすための23のレッスン 日本看護協会出版会</p>					

科目名		講義担当		所属	
看護倫理		石川 千夏 京野 順子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 倫理学で学んだ倫理の原則について学習してくる					
科目のねらい・授業目標 1. 看護の倫理が意味することと倫理規定について理解できる 2. 倫理の原則について理解できる 3. 看護における倫理の重要性を説明できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目	倫理の基本的な考え方について理解できる。 ・倫理とは何か ・倫理理論 ・他者理解と対話のための理論			講義 グループワーク 発表	
3回目	看護倫理の基礎的な考え方について理解できる。 ・看護理論とは何か ・看護倫理の歴史的推移 ・看護の倫理原則 ・看護倫理に関係する重要な言葉 (アドボカシー、協力、ケアリング、尊厳)			講義	
4回目	保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる。 看護職の倫理綱領、看護師の役割と責務 価値観			講義 グループワーク	
5回目	倫理原則について理解できる。 Jonsenらの4分割表 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・患者の自己決定支援に関すること SDM(shared decision making)			講義 グループワーク	
6回目	尊厳について理解できる。 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・終末期医療に関すること			講義 グループワーク	
7回目	看護研究の倫理について理解できる。 ・看護職の研究倫理 ・研究にける倫理的問題 ・倫理的配慮の要点 ・看護研究に必要な倫理的配慮			講義	
8回目	試験				
評価方法 筆記試験、グループワーク参加態度(石川 40点、京野 50点、課題 10点)					
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					
参考文献 小西恵美子編集:看護倫理 南江堂					

科目名		講義担当		所属	
看護研究概説		京野 順子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	3年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 看護研究は難しそうと苦手意識を持たず、できるだけ肩の力を抜いて、まずは1つ1つのステップを進めていきましょう。					
科目のねらい・授業目標 看護研究の意義・目的、方法、進め方について学び、研究計画書を作成できる。 看護職の研究取組を知り、研究の意識や態度を高める。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目	1. 看護研究の意義・目的 2. 研究の意義と方法 1) 質的研究、量的研究 2) 調査研究、事例研究、実験研究、文献研究			講義	
3回目 4回目	1. 研究のプロセス 2) 研究計画の立案 1) テーマの絞り方 3) データの収集法 4) データの分析方法 6) 研究結果の報告 5) 結果とその解釈			講義	
5回目 6回目	1. 文献検討の意義と方法 2. 文献検索をおこなうための5つのポイント 1) 文献検索の準備 2) 研究内容のキーワード特定 3) 検索誌の特色と検索方法 4) 文献リストの作成 5) 文献検討と文献カード 3. 文献検索と文献入手方法演習			講義 演習	
7回目	1. 研究と倫理 1) 基本的人権の擁護 2) 人権擁護のための3つの原則			講義	
8回目	1. 研究計画書作成の意義 2. 研究計画書の内容 1) 研究テーマ 2) 研究の動機・必要性 3) 研究目的 4) 用語の定義 5) 研究方法 6) 倫理的配慮 7) 研究日程			講義	
9回目 10回目	1. 研究論文の批評(クリティーク) 2. 研究計画書作成			講義 グループワーク	
11回目 12回目 13回目	1. 看護学会参加			聴講	レポート提出
14回目 15回目	1. 研究計画書の発表			発表	研究計画書及び発表資料の提出
16回目	試験				
評価方法 受講態度 筆記試験(50点)、研究計画書の作成及び発表(40点)、課題レポート(10点)					
使用するテキスト 前田樹海他: APAに学ぶ看護系論文執筆のルール, 医学書院					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
フィジカルアセスメント I		高山 美帆		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年次前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 1. 講義には積極的に主体性をもって臨むこと。 2. 演習・技術チェックに向け、自己学習時間を確保し技術練習をして臨むこと。 3. 演習・技術チェックの際は身だしなみを整えて出席すること。不備があった場合は参加できません。 4. 上記理由または体調不良による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を受けていただきます。					
科目のねらい・授業目標 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1. ヘルスアセスメント基礎知識 2. ヘルスアセスメントに必要な技術 3. 計測に関する知識と技術			講義	
2 回目 3 回目	1. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 情報収集とコミュニケーション 2) 視診の方法と留意点 3) 触診の方法と留意点 4) 聴診の方法と留意点 5) 打診の方法と留意点			講義 グループワーク	
4 回目 5 回目	1. 患者の全身状態・全体印象の把握 2. バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサインを測定する意義 2) 体温の測定方法とアセスメント 3) 脈拍の測定方法とアセスメント 4) 呼吸の測定方法とアセスメント 5) 血圧の測定方法とアセスメント			グループワーク	
6 回目	バイタルサイン測定の基本技術			演習	
7 回目	バイタルサイン測定の基本技術			技術チェック	
8 回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験 80 点 演習課題 20 点 合計 100 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント vol.3 メディックメディア					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
フィジカルアセスメントⅡ		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次前期・後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 1. 講義には積極的に主体性をもって臨むこと。 2. 演習の際は身だしなみを整えて出席すること。不備があった場合は参加できません。 上記理由または体調不良による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を受けていただきます。					
科目のねらい・授業目標 1. 系統別アセスメントに必要な知識・技術を習得できる。 2. 心理・社会状態のアセスメントの目的と実際について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1. ヘルスアセスメントについての振り返り 2. 系統別フィジカルアセスメントの基本技術 1) 呼吸器系			講義	
2回目	1. 系統別フィジカルアセスメントの基本技術 1) 循環器・血管系 2) 乳房・リンパ系 3) 腹部・消化器系 4) 筋・骨格系 5) 神経系 6) 外皮系			講義 シミュレーション学習	課題：頭部・頸部（甲状腺・リンパ節）
3回目					課題：眼・耳・鼻・口
4回目					課題：直腸・肛門・生殖器
5回目	心理・社会状態のアセスメントに関する必要な項目とその内容・記録の方法			講義	
6回目	事例に対するフィジカルアセスメントの方法			グループワーク	
7回目	フィジカルアセスメントの技術			演習	
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験 80点 第2回～4回目講義後の課題 各5点 合計15点 演習後課題レポート5点 合計100点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント vol.3 メディックメディア					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅰ		小林 正嘉		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
<p>1. 講義には積極的に主体性を持って参加してください。</p> <p>2. ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。</p> <p>3. 「どうあれば技術として成立するのか」「自分が実践する看護場面に技術は存在するのか」という問いを念頭に置き看護実践できる専門職者となるよう心掛けましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>履修の目的： 患者－看護師関係を基盤とした看護を実践するために必要な基本的な知識・技術を学ぶ</p> <p>目標： 1. 「技術」及び「看護技術」の概念や特徴について理解し説明できる 2. 看護における「安全・安心・安楽」の概念や重要性について理解し説明できる 3. 看護におけるコミュニケーション技術の意義や方法を理解し説明できる</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1. 「技術」とは、「看護技術」とは、を知る 「技術」「看護技術」の概念・本質・特徴 2. 「看護と技術」「技術と技能」の関係 3. 「看護はサイエンスとアートである」の意味 4. 「看護技術」の範囲、習得の仕方			講義	
2回目				講義	
3回目	1. 看護における「安全」とは 2. 「安全」「安心」「安楽」の概念			講義	
4回目	1. 人間関係の基礎となるコミュニケーションに関する基本的知識 2. 看護におけるコミュニケーション技術の重要性 3. 効果的な(治療的な)コミュニケーション技術の基本とあり方 4. コミュニケーションに必要な基本的態度			講義	
5回目				講義	
6回目				講義	
7回目				講義	
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験(100点)					
使用するテキスト					
講義に際し資料を配布します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅱ		備前 由紀子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1.事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2.看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1.療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について理解できる 2.ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換の技術を習得できる 3.感染予防の基礎知識が理解できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1.療養生活の環境と環境調整・整備の重要性を理解する 2.病室の環境のアセスメントと調整について理解する			講義	
2回目	1.ベッド周囲の環境整備を理解する 2.病床を整えることについて理解する			講義	
3回目	ベッドメイキングの技術を習得する			演習	
4回目				技術チェック	
5回目	感染予防の基礎知識を理解する 1)感染源対策、感染経路別対策 2)感染性廃棄物の取り扱い			講義	
6回目				講義	
7回目	感染予防・無菌操作の基本技術を習得する			演習	
8回目	終了試験 まとめ				
評価方法					
講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、筆記試験を総合的に評価します。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献					
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア					
ベッドまわりの環境学 医学書院					

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅲ		小林 正嘉		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
<p>1. 講義には主体性を持って積極的に参加してください。</p> <p>2. ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。</p>					
科目のねらい・授業目標					
<p>目標：1. 看護における「観察」の意義・重要性、「看護記録」と「報告」についての基礎的知識を理解し説明できる。</p> <p>2. 看護における教育機能・技術としての指導のあり方・学習支援の方法について理解し説明できる。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	<p>1. 看護における「観察」の意義</p> <p>2. 看護記録に関する基礎的知識</p> <p>1) 看護記録の意義と原則</p> <p>2) 看護記録と法</p> <p>3) 看護記録の種類</p> <p>3. 看護場面での報告に関する基礎的知識</p>			講義	
2回目				講義	
3回目				講義	
4回目				講義	
5回目	<p>1. 看護における教育機能</p> <p>1) 健康教育・教育的支援の目的・重要性</p> <p>2) セルフケアの概念と健康教育</p> <p>3) 教育行動理論の概念</p> <p>4) 健康教育と看護の役割</p> <p>2. 技術としての指導のプロセスと進め方の実際</p>			講義	
6回目				講義	
7回目				講義	
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験(100点)					
使用するテキスト					
講義に際し資料を配布します					
参考文献					

科目名 看護過程		講義担当 藤本 具子		所属 前職 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 看護過程の単位を修得することで基礎看護学実習Ⅲの受講可能となる。 看護過程の展開が実施できるように個人ワークやグループワークを積極的に参加すること。					
科目のねらい・授業目標 1. 看護過程の意義と一連のプロセスを理解できる。 2. 事例患者を用いて看護過程の展開が理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目 3回目 4回目 5回目	1.看護過程の意義や目的が理解できる ・看護過程とは 2.ゴードンの機能的健康パターンに基づき アセスメント方法が 理解できる ・情報収集と分析方法 3.NANDA- I を使用し看護診断方法が理解できる ・NANDA- I を使用し診断を導き			講義＋ワーク方式 ・2型糖尿病事例 を用いてワーク	
6回目 7回目 8回目 9回目 10回目	1.関連図の関連性と書き方が理解できる ・関連図 2.看護診断(問題)の優先順位の考え方が理解できる ・NANDA- I 使用 3.看護計画の考え方を理解できる ・糖尿病事例の看護計画 4.看護記録のルールを理解できる ・守秘義務 ・倫理的配慮				
冬休み中の課題 * 脳梗塞事例を用いて看護展開					
11回目 12回目	脳梗塞の事例を用いてグループワーク アセスメント～看護計画			グループワーク	
13回目	グループ発表				
14回目 15回目	課題事例			個人ワーク	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA－Ⅰ看護診断 定義と分類 医学書院 病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程 照林社					
参考文献 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
日常生活の援助技術 I		中川まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 1. 講義中に提示された事前課題(ワークシート、動画視聴等)に必ず取り組み、講義・演習にのぞむこと。 2. 演習には学習にふさわしい身だしなみを整えていないと、演習には参加できません。(欠課になります) 3. 提示された事前課題を期日までに提出しなかった場合、演習には参加できません。(欠課になります) 4. 上記理由、または体調不良による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を行います。					
科目のねらい・授業目標 1. 姿勢に関する基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる 2. 睡眠と睡眠障害について理解し、具体的な援助方法について理解できる 3. 様々な体位とその体位保持の目的を理解し、体位変換の援助技術を習得できる 4. 移乗・移送の援助やその方法を理解し、援助技術を習得できる 5. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解できる。 6. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、全身の清潔を保持する援助技術および寝衣交換の技術を習得できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1. 基本的活動の基本的知識を理解する			講義	
2 回目	1) 移動技術とボディメカニクス 2) 姿勢と動作 3) 体位保持・体位変換				
3 回目	4) 基本的活動への援助				
	2. 睡眠と休息に関する援助について理解する				
4 回目	1) 睡眠の整理 2) 睡眠と休息への援助			演習	課題あり
4 回目	体位変換、安楽な体位の調整、歩行・移動介助の技術を習得できる			演習	課題あり
5 回目	1. 清潔の援助の基礎知識: 皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の効果			講義	
6 回目	2. 入浴・シャワー浴				
	3. 洗髪				
	4. 手浴・足浴				
7 回目	洗髪の援助			演習	課題あり
8 回目	洗髪の援助			演習	課題あり
9 回目	手浴の援助			演習	課題あり
10 回目	足浴の援助				
	安楽の促進・苦痛の緩和としての足浴の援助				
11 回目	1. 全身清拭			講義	
	2. 整容 (洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、ひげそり)				
	3. 病床での衣生活の援助				
12 回目	全身清拭: 臥床患者、寝衣交換を含む。点滴・ドレーンなし			演習	課題あり
13 回目	全身清拭: 臥床患者、寝衣交換を含む。点滴・ドレーンなし			技術チェック	
14 回目	全身清拭: 臥床患者、寝衣交換を含む。点滴・ドレーンなし				
15 回目	全身清拭: 臥床患者、寝衣交換を含む。点滴・ドレーンなし				
16 回目	筆記試験				
評価方法 筆記試験 (80点)、 演習レポート(5点×4回分)					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献 看護が見える①基礎看護技術					

科目名	講義担当	所属		
日常生活の援助技術Ⅱ	中川 まゆ子	秋田市医師会立秋田看護学校		
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数
30時間				
受講上の留意点 1.事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと、演習は看護技術の動画を視聴してのぞむこと 2.演習には学習にふさわしい身だしなみを整えていないと、演習には参加できません。(欠課になります) 3.提示された事前課題を期日までに提出しなかった場合、演習には参加できません。(欠課になります) 4.上記理由、または体調不良中による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を行います。				
科目のねらい・授業目標 1.姿勢に関する基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる 2.様々な体位とその体位保持の目的を理解し、体位変換の援助技術を習得できる 3.移乗・移送の援助やその方法を理解し、援助技術を習得できる 4.睡眠と睡眠障害について理解し、具体的な援助方法について理解できる 5.食事援助の基礎知識を理解し、食事摂取の援助技術を習得できる 6.排泄援助の基礎知識を理解し、排泄の援助技術を習得できる				
授業回数	学習内容		方法	備考
1回目	1.食事摂取および食事援助に関する基礎知識		講義	
2回目	2.摂食・嚥下訓練			
3回目	3.非経口的栄養摂取の援助 (経鼻胃チューブの挿入、経管栄養法) (中心静脈栄養法)			
4回目	1.食事摂取の介助技術(嚥下障害なし)		演習	
5回目	2.口腔ケアの技術			
6回目	1.排泄のメカニズムとアセスメント		講義	
7回目	2.自然排尿および自然排便の介助 (床上、ポータブル、オムツ)			
8回目	3.一時的導尿、持続的導尿の援助 4.排便を促す援助、浣腸、摘便			
9回目	陰部洗浄・オムツ交換の技術		演習	
10回目				
11回目	浣腸の技術		演習	
12回目				
13回目	一時的導尿、膀胱留置カテーテルの挿入の技術		演習	
14回目				
15回目	終了試験とまとめ			
評価方法 筆記試験 80点、演習レポート(5点×4回分) ※上記留意点 2,3 該当は未提出扱い				
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考文献				

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅰ		杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 1.講義中に提示された事前課題(ワークシート、動画視聴等)に必ず取り組み、講義・演習にのぞむこと。 2.演習には学習にふさわしい身だしなみを整えていないと、演習には参加できません。(欠課になります) 3.提示された事前課題を期日までに提出しなかった場合、演習には参加できません。(欠課になります) 4.上記理由、または体調不良による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を行います。					
科目のねらい・授業目標 患者が安全・安楽に診療を受けるために必要な診療補助技術について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	診察・検査・処置における技術 1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助(心電図モニターの操作・管理)			講義	
2回目	呼吸・循環を整える技術① 1. 酸素療法(酸素ポンベの操作・管理) 2. 排痰ケア(体位ドレナージ)			講義	
3回目	3. 胸腔ドレナージ 4. 吸入(ネブライザーの使用) 5. 人工呼吸療法(人工呼吸器) 6. 体温管理の技術(体温調整の援助) 7. 末梢循環促進ケア			講義	
4回目	創傷管理技術 1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置(ドレーン類の挿入部の処置、創洗浄、創保護包帯法、三角巾)			講義	
5回目	3. 褥瘡予防(褥瘡予防ケア)			講義	
6回目	呼吸・循環を整える技術② 排痰ケア(口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引)			講義	
7回目	口腔内・鼻腔内・気管内吸引の技術			演習	
8回目	終了試験				
評価方法 筆記試験(100%)					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅱ		杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 1. 講義には積極的に主体性をもって臨むこと。 2. 提示された課題は期日を守って提出すること。 3. 演習の際は身だしなみを整えて出席すること。不備があった場合は参加できません。(欠課になります)。 4. 上記理由または体調不良による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を受けていただきます。					
科目のねらい・授業目標 1. 薬物の特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理について実践できる技術を習得する。 2. 静脈血採血の基礎知識と援助について理解できる。 3. 輸血療法の基礎知識を習得できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1. 与薬に伴う基礎知識および技術 1) 薬物の基本的性質 2) 看護師の役割 3) 与薬の技術			講義	
2回目				講義	
3回目	1. 注射に伴う基礎知識および技術 1) 注射の基礎知識 2) 注射の技術 3) 中心静脈カテーテル挿入の介助と管理方法 4) 輸血療法に関する基礎知識			講義	
4回目				講義	
5回目	静脈血採血の基礎知識と援助の実際			講義・演習	
6回目	皮下注射の技術			演習	
7回目	点滴静脈内注射の技術			演習	
8回目	試験				
評価方法 筆記試験 70点分 演習課題 30点分					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅱ		高山 美帆		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義には積極的に主体性をもって臨むこと。 2. 提示された課題は期日を守って提出すること。 3. 演習の際は身だしなみを整えて出席すること。不備があった場合は参加できません。(欠課になります)。 4. 上記理由または体調不良による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を受けていただきます。 					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理について実践できる技術を習得する。 2. 静脈血採血の基礎知識と援助について理解できる。 3. 輸血療法の基礎知識を習得できる。 					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1. 与薬に伴う基礎知識および技術 1) 薬物の基本的性質 2) 看護師の役割 3) 与薬の技術 (経口、口腔内、吸入、点眼、点鼻、経皮的、直腸内)			講義	
2回目				講義	
3回目	1. 注射に伴う基礎知識および技術 1) 注射の基礎知識 2) 注射の技術 3) 中心静脈カテーテル挿入の介助と管理方法 4) 輸血療法に関する基礎知識			講義	
4回目				講義	
5回目	静脈血採血の基礎知識と援助の実際			講義・演習	
6回目	皮下注射の技術			演習	
7回目	点滴静脈内注射の技術			演習	
8回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 70点分 演習課題 30点分</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院</p>					
<p>参考文献</p> <p>看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア</p>					

科目名		講義担当		所属	
医療のカンファレンス		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>1. 講義には主体性を持って積極的に参加してください。</p> <p>2. ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p><ねらい> 看護の視野の広がりを促進させ、看護専門職になる者としてのかまえや態度を育む。</p> <p><到達目標></p> <p>1. よりよい看護実践のための「カンファレンス」実施の意義・目的、「カンファレンス」の基礎的知識・効果的な運営方法を理解し説明できる。</p> <p>2. 問題解決の方向性を導き出す技法としての「カンファレンス」を効果的に展開できる。</p> <p>3. 「カンファレンス」実施のためのプロセスや実施による学習効果を理解し説明できる。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1. カンファレンス実施の意義・目的・機能 2. カンファレンスに関する基礎的知識 3. 看護におけるカンファレンスとは			講義	
2回目				講義	
3回目	1. 看護学生のためのカンファレンスの要点 2. 目的達成に向けた効果的な運営方法			講義	
4回目	効果的なカンファレンスの運営の実際① <疑問点・問題点抽出> <解決方略・方向決定>			講義／演習	事前課題
5回目	効果的なカンファレンスの運営の実際② <文献検索・検討> <資料作成>			講義／演習	資料提出
6回目	効果的なカンファレンスの運営の実際③ <模擬カンファレンスの展開> <成果の確認>			演習／講義	事後課題
7回目	「模擬カンファレンス」を通してのリフレクション <課題達成及び集団維持機能の視点での振り返り>			講義	事後課題
8回目	試験				
<p>評価方法</p> <p>講義及び演習への状況・事前及び事後課題(30点配分)、筆記試験(70点配分)</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>講義に際し資料を配布します</p>					
<p>参考文献</p>					

科目名		講義担当		所属	
秋田を知る		新堀 道生 丸谷 仁美 藤中 由美 千田 育栄 中川 まゆ子		秋田県立博物館 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
1.秋田の歴史、特性を理解する。 2.秋田で暮らす人々の生活環境(食文化・居住文化・芸術文化・自然)を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	秋田の歴史について			講義	
2回目	秋田の食文化について				
3回目	秋田の自然環境について				
4回目	秋田の先人について				
5回目	秋田市の芸術・食文化・環境・住環境について探求			フィールドワーク	フィールドワークに関しては、別紙資料配布
6回目					
7回目					
8回目					
評価方法					
課題レポート					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
なし					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
暮らしの理解		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
調べ学習を中心としたグループワークを実施する。					
科目のねらい・授業目標					
地域で暮らしている人々の暮らす環境を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	生活している人々のライフステージと発達課題を理解できる。 1)人生 2)家族・家庭 3)生涯発達			講義	
2回目	高齢者の現状と課題を理解できる。 1)高齢者の現状と課題 2)身体的特徴 3)高齢社会				
3回目	私たちの生活と福祉を理解できる。 1)福祉のとらえ方 2)社会保障 3)共生				
4回目	食生活の課題について理解できる。 1)食べるとは 2)栄養と食品、栄養バランス			講義 グループワーク	
5回目	3)安全と衛生				
6回目	衣・住生活の役割を理解できる。 1)着る 2)衣生活と環境			講義	
7回目	経済の役割を理解できる。 1)家庭の経済生活 2)消費者の権利と責任				
8回目	試験・まとめ				
評価方法					
課題レポート					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属		
健康と暮らしを支える技術		田畑 美雪		彩の風訪問看護ステーション		
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
受講上の留意点						
科目のねらい・授業目標 暮らしの場で看護するために必要な看護援助と、実践するために必要な安全対策と事故防止の知識について理解できる。						
授業回数	学習内容			方法	備考	
1回目	地域在宅看護の展開について理解できる 地域在宅看護の特徴と看護展開 家族のアセスメントと支援 コミュニケーション			講義 グループワーク	嚥下 TPN、 カフティポン プ おむつ交換 ストーマ フットケア スクイー ジ ング 排痰 体位変換 ドレッシング 材	
2回目	療養者の暮らしを取りまく安全対策が理解できる リスクマネジメント・暴力・ハラスメント 療養環境調整の必要性が理解できる 療養環境の調整方法とアセスメント			講義 グループワーク		
3回目 4回目	日常生活を支える看護を理解できる 食生活・嚥下 経鼻経管栄養法・胃ろうの管理 在宅中心静脈栄養・内服管理			講義		
5回目 6回目	排泄・ストーマ			講義 演習		
7回目 8回目	清潔・衣生活 フットケア			講義 演習		
9回目 10回目	在宅における呼吸・循環環境のアセスメント方法が理解できる フジカルアセスメント 呼吸法・HOT管理・排痰法・人工呼吸器			講義 演習		
11回目 12回目 13回目	創傷管理に関する地域・在宅看護技術が理解できる マットレスの選択・体位変換 テープ・ドレッシング材・薬剤の選定方法 褥瘡・スキンケアのケア方法			講義		
14回目	地域在宅における時期別の看護について理解できる 内服管理・疼痛コントロール			講義		
15回目	地域在宅看護における看護実践の考え方が理解できる 多様な場の在宅看護マネジメント			講義		
16回目	試験					
評価方法 筆記試験 100点						
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】						
参考文献						

科目名 健康と暮らしを 支える看護		講義担当 藤本 具子		所属 前職 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.地域・在宅看護マネジメントが理解できる。 2.地域・在宅看護の特性をふまえた看護過程の展開が理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	在宅療養を支える訪問看護の役割 1)訪問看護の制度と現状 2)訪問看護における看護師の役割			講義 DVD視聴	
2回目	在宅看護におけるケアマネジメント 1)ケアマネジメントとは 事例によりケアプラン作成			講義 グループワーク	
3回目	地域・在宅看護における療養者と家族への看護 1)難病がある療養者と家族へのケア 2)慢性疾患のある療養者と家族へのケア 3)精神障害がある療養者と家族へのケア 4)医療的ケア児と家族へのケア 5)認知症がある療養者と家族へのケア 6)エンドオブライフケアの理解			講義	
4回目					
5回目					
6回目					
7回目	地域・在宅看護における看護過程とその意義、展開の方法が理解できる。 1)情報収集・アセスメント 2)ICFの考え方 3)情報の解釈方法・判断力 4)立案・計画・実践・評価			講義 グループワーク	
8回目					
9回目	療養者とその家族の生活状況について、ICFに基づいた看護展開が理解できる。 1)事例展開 各グループで事例を展開する			グループワーク	
10回目					
11回目	事例発表			グループ発表	
12回目	課題			個人ワーク	
13回目					
14回目	映画『いのちの停車場』視聴			DVD視聴	
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 40点 看護過程 50点 課題レポート 10点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
成人看護学概論		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年次後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>受講上の留意点 授業内容について教科書を読み授業に参加すること。</p> <p>科目のねらい・授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 成人期にみられる健康障害について、成人の特徴・生活行動と関連づけて考えることできる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護について理解できる。 4. 成人への看護に有用な概念について理解できる。 					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	大人になること、大人であること ・成人の特徴を理解できる →身体的・心理的・精神的な特徴、発達課題の特徴			講義	
2 回目	大人として生きていくこと ・成人の生活を理解できる →家族形態の変化、家族機能、ライフスタイルの特徴			講義 演習	
3 回目	・成人を取り巻く環境について理解できる →社会状況の変化、産業構造・労働環境の変化			講義 演習	
4 回目	健康の理解 ・健康の概念、定義 ・健康の保持増進、疾病予防 プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション			講義	
5 回目	ヘルスプロモーションと看護 ・健康行動、保健行動			講義	
6 回目	健康行動に必要な理論 →健康信念モデル、変化のステージモデル プリシード・プロシードモデル、 セルフエフェカシー、ヘルスリテラシー			講義	
7 回目	地域におけるヘルスプロモーション ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ			講義	
8 回目	健康バランスに影響を及ぼす要因 ・ストレスと健康生活について理解できる			講義	
9 回目	ワーク・ライフ・バランスと健康障害 ・職業に関連する健康問題について理解できる →就労条件・環境と疾病との関係、職業性疾患、作業関連疾患			講義	
10 回目	生活習慣に関連する健康障害 ・健康をおびやかす要因と看護について理解できる →生活習慣病の要因、健康問題の現状と推移			講義	
11 回目	セクシャリティとジェンダーに関連する健康障害 更年期に見られる健康障害			講義	
12 回目	成人の健康レベルや状態に応じた看護 ・健康の急激な破綻とその回復を支援する →ストレスコーピング理論、危機モデル			講義	
13 回目	→適応理論			講義	

14 回目	・慢性病とともに生きる人を支える →病みの軌跡、セルフケア、セルフマネジメント、自己効力	講義	
15 回目	・障害がある人とその生活を支援する ・QOL の考え方、アドバンスケアプランニング	講義	
16 回目	試験	筆記試験	
評価方法 授業参加状況、筆記試験			
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論. 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			
参考文献 公衆衛生が見える メディックメディア			

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 がんとともに生きる成人看護		講義担当 糸川 紅子 梅野 華乃子		所属 日本赤十字東北看護大学 日本赤十字東北看護大学	
履修時期	2年次後期	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点 ・事前学習(別途提示)を行った上で授業に臨むこと。 ・疑問点は授業時間内に解決すること。 ・グループワークでは、協力して取り組むこと。					
科目のねらい・授業目標 <ねらい> がんとともに生きる患者・家族を支援するために、必要ながん看護の知識・技術・態度および倫理観を養う。 <授業目標> 1. がん病変や治療に伴って生じる症状や生活上の課題に対する基本的な看護について説明できる。 2. がん患者・家族の支援に要するコミュニケーションおよび意思決定支援について説明できる。 3. がんとともに生きる患者と家族を支える看護職の役割と使命について考えることができる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1	がんとともに生きるとは 診断から終末期までの全体像／看護の役割			講義	糸川
2	がん医療の現状と看護(1章A) がん対策・地域包括ケアと看護			講義	糸川
3	がんの疫学・予防(1章B・C) 疫学データの理解／予防・早期発見			講義	糸川
4	エビデンスと倫理(1章D・E) EBP／ACPと倫理的課題			講義	糸川
5	がんの病態①(2章A) 発生・増殖・浸潤・転移の理解			講義	糸川
6	がんの病態②・診断(2章B・C) 病態・症候／診断と病期			講義	糸川
7	がん治療の全体像(3章A) 治療選択／緩和ケア			講義	梅野
8	手術療法と看護(3章B) 周手術期看護意思決定支援			講義	糸川
9	薬物療法と看護(3章A・C) 副作用管理／セルフケア／曝露対策／ゲノム医療			講義	糸川
10	放射線療法と看護(3章D) 有害事象対策／治療継続支援			講義	糸川
11	がん患者の苦痛マネジメント(4章B) 身体的・精神的苦痛への看護			講義	糸川
12	心理・社会的支援(4章C) コミュニケーション／家族支援			講義	糸川
13	療養支援と統合(5章H) 療養の場の選択／地域連携／統合			講義	梅野
14	治療と療養を支える看護(5章A・H) 治療継続／生活調整／チーム連携			講義	糸川
15	がん患者・家族の倫理的課題			グループワーク	糸川
16	試験				梅野
評価方法 授業参加状況、筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 がん看護学. 医学書院					
参考文献 授業内で随時提示する。					

科目名 生きているための成人看護		講義担当 藤本 具子		所属 前職 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 各臓器の解剖生理を事前に学習して授業参加すること。					
科目のねらい・授業目標 生きているために必須な呼吸、循環、尿排泄に障害を持つ対象の看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ。 1.呼吸機能障害の原因と症状を理解し、対象に応じた看護援助を理解できる。 2.循環機能障害の原因と症状を理解し、対象に応じた看護援助を理解できる。 3.腎臓機能障害の原因と症状を理解し、対象に応じた看護援助を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	呼吸と循環の仕組みを理解できる 1)肺・心臓の解剖生理 2)呼吸困難・浮腫の症状別看護			講義	
2 回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 1)治療・症状・検査と看護			講義	
3 回目 4 回目	事例による看護過程の展開 事例)気管支喘息			グループワーク	
5 回目	事例発表			発表	
6 回目	循環機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 1)治療・症状・検査と看護			講義	
7 回目	2)ペースメーカー植え込み術を受ける対象の看護			講義	
8 回目 9 回目	事例による看護過程の展開 事例)急性心筋梗塞			グループワーク	
10 回目	事例発表			発表	
11 回目 12 回目	腎臓機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 1)治療・症状・検査と看護 2)人工透析と看護			講義	
13 回目 14 回目	事例による看護過程の展開 事例)慢性腎不全			グループワーク	
15 回目	事例発表			発表	
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験 100 点 使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器[3]循環器[8]腎・泌尿器. 医学書院 参考文献 臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論. 医学書院					

科目名		講義担当		所属	
生きていくための成人看護		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 ・各疾患の病態、検査、治療について事前学習し講義に臨むこと。					
科目のねらい・授業目標 1. 生きていくために必要な内臓・運動器・免疫機能に障害をもつ対象の看護に必要な知識・技術を理解できる。 2. 内臓障害の原因と症状がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 3. 運動器機能障害の原因と症状がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 4. 内分泌・免疫機能障害の原因と症状がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 5. 脳・神経機能障害の原因と症状がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	潰瘍性大腸炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	[5] 消化器
2 回目	膵炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	
3 回目	胆のう炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	
4 回目	肝硬変をもつ対象の看護を理解できる。			講義 グループワーク	
5 回目					
6 回目					
7 回目	腰椎椎間板ヘルニアをもつ対象の看護を理解できる。			講義	[10] 運動器
8 回目	脳・視床下部・下垂体機能障害をもつ対象の看護を理解できる。			講義	[6] 内分泌・代謝
9 回目	甲状腺・副甲状腺機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 副腎皮質機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 事例)甲状腺機能亢進症			講義 グループワーク	
10 回目					
11 回目					
12 回目	関節リウマチをもつ対象の看護を理解できる。			講義	[7] 脳・神経
13 回目	全身性エリテマトーデスをもつ対象の看護を理解できる。			講義	
14 回目	筋ジストロフィーをもつ対象の看護を理解できる。			講義	
15 回目	筋萎縮性側索硬化症の看護を理解できる。			講義	
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験 90 点、グループワーク課題 10 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 [6] 内分泌・代謝 [7] 脳・神経 [10] 運動器. 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
成人看護技術		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 1. 疾患の病態、検査、治療について事前学習し講義に臨むこと。 2. 講義には積極的に主体性をもって臨むこと。 3. 技術演習には、講義資料および演習資料を熟読し臨むこと。					
科目のねらい・授業目標 1. 内分泌・代謝障害がある患者の治療・自己管理に応じた看護を理解できる 2. 救命救急処置の知識・技術を習得できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	糖尿病の食事療法・運動療法・合併症予防を理解できる。 1. 糖尿病患者の看護 1) 食事療法における援助 2) 運動療法における援助 3) 薬物療法における援助 4) 合併症予防に対する援助			講義	
2 回目	自己血糖測定の方法の実際を理解できる。 1. 検査を受ける糖尿病患者の看護 1) 経口ブドウ糖負荷試験の実際 2) 自己血糖測定の実際 2. 自己血糖測定の技術			講義・演習	
3回目 4回目	成人期における糖尿病患者のセルフマネジメント支援 1. 患者教育とは 2. 患者教育における看護師の役割 3. 患者の学習支援方法 4. 患者の学習支援における教材 5. 学習支援の実際			講義 グループワーク	
5回目	1. 救命救急処置の基礎知識 2. 心肺蘇生法 3. 止血法			講義	
6回目 7回目	1. 一次救命処置技術 1) BLS 2) 病院内における急変時の対応			演習	
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験 80 点分 グループワーク課題 10 点 演習課題 10 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6]内分泌. 医学書院 系統看護学講座 専門分野 [3]基礎看護学 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 [3]基礎看護学 基礎看護技術 II 医学書院					
参考文献					

科目名 成人・老年期の生命の 危機にある人の看護		講義担当 高山 美帆		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 1. 授業内容について教科書を読み授業に参加すること。 2. 手術経験者に「手術についての思い」、「手術による生き方の変化」についてインタビューをする。(自分を含め、身近に対象者がいる場合) 3. 本講義は「成人期・老年期の周手術期実習」に直結する位置付けであるため実習前に習得すること。 4. 8～12 回目は各病態論の講義内容を復習の上臨むこと。 5. 13、14 回目は演習です。ユニフォーム着用の上参加してください。					
科目のねらい・授業目標 1. 健康レベルの特徴を理解し、生命の維持・回復、生活の再構築と日常生活への適応に向けた看護について理論と方法を学ぶ 2. 生命の危機的状態や周手術期にある人の特徴を学び急性期ケアならびに麻酔や手術による形態機能の変化に応じた看護に必要な知識・技術・態度を理解することができる。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	オリエンテーション/クリティカルな成人・高齢者の特徴と看護		講義	テキスト1、 資料	
2 回目	クリティカルケアにおける生体反応とアセスメント		講義	テキスト1・2、 資料	
3 回目	クリティカルな状態にある対象の全身管理と日常への支援 (呼吸、体液・循環、体温、栄養、代謝、鎮痛、感染予防)		講義	テキスト1、 資料	
4 回目	術前の看護 (インフォームドコンセント、術前オリエンテーション、身体準備)		講義	テキスト2、 資料	
5 回目	術中の看護 (環境、麻酔導入・覚醒時の看護、直接・間接介助、手術体位)		講義	テキスト2、 資料	
6 回目	術後の看護① (術後モニタリング、術後疼痛、術後回復促進ケア)		講義	テキスト2、 資料	
7 回目	術後の看護② (術後合併症と予防のための看護)		講義	テキスト2、 資料	
8 回目	消化器系・吸収障害を持つ対象の周手術期看護 ① 事例を通して対象を理解する		講義・演習	テキスト2、3、 資料	
9 回目	消化器系・吸収障害を持つ対象の周手術期看護 ② 事例を通して看護展開を考える		講義・演習	テキスト2、3、 資料	
10 回目	運動器障害を持つ対象の周手術期看護 ① 事例を通して対象を理解する		講義・演習	テキスト2、3、 資料	
11 回目	運動器障害を持つ対象の周手術期看護 ② 事例を通して看護展開を考える		講義・演習	テキスト2、3、 資料	
12 回目	周手術期における看護技術		講義・演習	テキスト2、3、 資料	
13 回目 14 回目	術直後の管理 術後早期離床への援助 (気管内挿管、輸液ポンプ、呼吸器合併症予防、深部静脈血栓症予防、術後患者観察のポイント)		演習	テキスト1、2、3、 資料 実習室使用 ユニフォーム着用	
15 回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験(80%)、演習レポート(10%)、演習参加状況(10%)					
使用するテキスト 1. 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学. 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 . 医学書院 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論. 医学書院					
参考文献 : 周手術期看護学習ワークブック(メジカルフレンド社)					

科目名 成人・老年期の生を支え 再構築する看護		講義担当 高橋 久美子		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 1. 脳・血液・循環器・呼吸器それぞれの解剖生理は各自事前学習を行い参加すること。 2. 事例展開し話し合いが多くなるため、事前学習を積極的に行うこと。					
科目のねらい・授業目標 1. 成人・老年期における慢性期の特徴とセルフケア獲得に向けた看護を理解できる。 2. リハビリテーション期の特徴と対象の看護を理解できる。 3. 慢性疾患を抱えながら生活を再構築する対象の疾患と看護を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	リハビリテーション期の特徴と看護が理解できる			講義	
2 回目	慢性期の特徴と看護が理解できる			講義	
3 回目	脳・神経疾患の症状と看護を理解できる 事例)脳梗塞事例 5 回目:グループ発表			講義 個人・グループワーク	
4 回目					
5 回目					
6 回目	血液疾患の症状と看護を理解できる 事例)白血病事例 8 回目グループ発表			講義 個人・グループワーク	
7 回目					
8 回目					
9 回目	循環器機能障害の症状と看護を理解できる 事例)心不全事例 11 回目グループ発表(個人・グループワーク評価あり)			講義 個人・グループワーク	
10 回目					
11 回目					
12 回目	呼吸器障害の症状と看護を理解できる 事例)慢性呼吸不全 14 回目グループ発表(個人・グループワーク評価あり)			講義 個人・グループワーク	
13 回目					
14 回目					
15 回目	事例を用いて個人ワーク 筆記試験+課題レポート			個人ワーク	
16 回目					
評価方法 筆記試験 50 点、課題レポート 40 点、個人・グループワーク評価 10 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論【医学書院】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護【医学書院】 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器[3]循環[4]血液・造血管器[7]脳・神経【医学書院】					
参考文献 病気・発達段階の視点でみる疾患別看護過程【照林社】 NANDA-I 看護診断 定義と分類【医学書院】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA					

科目名 老年看護学概論		講義担当 佐藤 聡美		所属 前職 中通高等看護学院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 高齢者の医療福祉の動向を理解し、対象とその家族に対する看護の役割を理解できる。 1.高齢者の生活と健康問題について理解できる。 2.高齢者の権利擁護を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	加齢と老化を理解できる =第1章= 1) 身体的・心理的・社会的側面の変化 2) 高齢者の定義 老年期の発達課題			講義	
2回目	超高齢社会の統計的輪郭が理解できる =第2章= 1) 超高齢社会の現状 2) 超高齢社会の課題 3) 高齢者の健康状態 4) 高齢者のくらし			講義	
3回目	超高齢社会の社会保障が理解できる =第2章= 1) 高齢者の保健医療制度の変遷 2) 介護保険制度 地域共生社会				
4回目	高齢者の権利擁護が理解できる =第2章= 1) 高齢者に対する差別と権利擁護 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 権利擁護のための制度			講義	
5回目	老年看護のなりたちが理解できる =第3章= 1) 老年看護学の発展 2) 老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用				
6回目	高齢者のヘルスアセスメントの基本を理解できる 1)ヘルスアセスメントの基本 =第4章=			講義	
7回目	高齢者の終末期の看護を理解できる =第8章= 1) エンドオブライフケアの概念 2) 生きることを支えるケア 3) 意思決定の支援 末期段階に求められるケア			講義	
8回目	試験 60分 100点				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					
参考文献					

科目名 健康障害をもつ高齢者の 回復を促す看護		講義担当 佐藤 聡美		所属 前職 中通高等看護学院	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 高齢者の加齢変化にともなう健康障害に特徴と看護を理解できる。 1.健康障害をもつ高齢者の特徴を理解できる。 2.高齢者に生じやすい症状と看護を理解できる。 3.認知機能障害のある高齢者を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1～2 回目	1. 高齢者の加齢変化に伴うヘルスアセスメントを理解する。 =第4章= 1) 皮膚・視聴覚・感覚 2) 循環系・呼吸器系・消化器系 3) ホルモンの分泌・泌尿器生殖器 4) 運動系 ・ロコモティブシンドローム・サルコペニア			講義	
3～6 回目	2. 高齢者によくある症状のアセスメントとその看護を理解する。=第6章= 1) 発熱 ・ 痛み 2) かゆみ ・ 脱水 3) 嘔吐 ・ 浮腫 4) 倦怠感 ・ 褥瘡 その他			講義	
7 回目	3. 身体疾患のある高齢者の看護を理解する。 1) 脳卒中			試験 講義	
8～11 回目	2) 心不全 ・ 糖尿病 3) 慢性閉塞性肺疾患 ・ パーキンソン病 4) インフルエンザ ・ 肺炎 5) 骨粗しょう症 ・ 骨折			講義	
12～15 回目	4. 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する。 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症			講義	
16 回目	試験 60 分 60 点				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					
参考文献					

科目名 高齢者のより健康な生活を 支援する看護		講義担当 佐藤 聡美 藤本 具子		所属 前職 中通高等看護学院 前職 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 演習にふさわしい身だしなみでない場合、欠課扱いとなります。					
科目のねらい・授業目標 1. 高齢者に生じる身体的変化を理解し、生活支援のための看護を理解できる。 2. 高齢者の健康障害の病態と看護を理解する。 3. 紙上事例を用いて健康障害のある高齢者の看護過程の展開ができる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	老年症候群とフレイルを理解し、アセスメントと看護が理解できる。 =第5章= 1)日常生活動作と環境のアセスメントと看護			講義	
2回目	2)食事・食生活のアセスメントと看護			講義	
3回目	3)排泄のアセスメントと看護			講義	
4回目	4)清潔のアセスメントと看護			講義	
5回目	4)生活リズムのアセスメントと看護			講義	
6回目	6)コミュニケーションのアセスメントと看護			講義	
7回目	試験				
8回目	日常生活援助技術の支援が理解できる			講義	
9・10回目	老年体験・入れ歯洗浄・嚥下体操・経管栄養法・摘便			演習	
11回目 12回目	パーキンソン病の看護を理解できる。 1) パーキンソン病の病態・検査・治療 2) 看護 3) 事例看護展開			講義 グループワーク	
13回目	運動機能障害の看護を理解できる 1)病態・検査・治療・看護 2)事例看護展開			講義 グループワーク	
14・15回目	課題レポート 事例展開			講義 グループワーク	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 50点・課題レポート 50点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論. 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学. 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
社会の中でともに育つ子ども		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 子どもをイメージし理解できるように講義に臨み、事前の課題にも主体的に取り組みましょう					
科目のねらい・授業目標 小児看護の対象である小児各期の特徴について学び、小児各期の健康増進のための看護を理解できる。 また、子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉の変遷を知り、小児看護の現状や求められている看護の役割について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1) 小児看護の対象:子どもの特徴、子どもと家族 2) 小児看護の役割 3) 子どもと家族の動向 人口構造、出生と家族、子どもの死亡、子どもの虐待 4) 小児看護の変遷			講義	
2 回目	小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 倫理原則 3) 小児医療における倫理的課題			講義	
3 回目	子どもの成長・発達の特徴 1) 子どもの成長・発達			講義	
4 回目	2) 子どもの成長・発達の原則				
5 回目	3) 成長・発達に影響を及ぼす因子				
6 回目	4) 形態的発達				
7 回目	5) 機能的発達 6) 心理社会的発達 7) 成長・発達の評価				
8 回目	小児各期の特徴と健康増進のための看護			講義	
9 回目	1) 小児各期の特徴				
10 回目	新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期				
11 回目	2) 小児各期の養育と健康問題				
12 回目	3) 小児各期の看護				
13 回目					
14 回目	子どもと家族を取り巻く社会			講義	
15 回目	1) 変遷と現在の状況 2) 子どもの医療 3) 法律と政策 児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、学校保健安全法 4) 小児医療・小児看護の課題				
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験 100点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	健康障害をもつ子どもとその家族	講義担当	山本 尚樹 薄田 悦子	所属	市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
講義前にはテキストを熟読し臨むこと					
科目のねらい・授業目標					
健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と、それに伴う様々な状況および必要な看護が理解できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	病気・障害が子どもと家族に与える影響 ・ピアジェ認知発達理論、ストレス反応とコーピング、患者・家族中心のケア ・意思決定支援、シェアードディシジョンメイキング、アドバンスケアプランニング			講義	
2 回目	入院中の子どもと家族の看護 ・病棟の特徴 (NICU, GCU, 小児病棟、小児科病棟、混合病棟、プレイルーム) ・完全看護と分離、同胞面会、専門職連携 (保育士や学校教諭、遊びや学習支援)			講義	
3 回目	外来における子どもと家族の看護 ・感染対策、予防接種、ディストラクション、プレパレーション、ホームケア指導			講義	
4 回目	在宅療養中の子どもと家族の看護 ・医療的ケアの定義と法律、重度心身障害児の定義、インクルーシブ教育 ・社会資源 (訪問、通所: 児童発達支援・放課後等デイサービス、レスパイト入院)			講義	
5 回目	災害時の子どもと家族の看護 ・被災後の子どもの反応 (急性ストレス障害、ポストトラウマティックプレイ)			講義	
6 回目	慢性期にある子どもと家族の看護 ・I 型糖尿病 (病態、カーボカウント、インスリンポンプ、復学支援、トランジション)			講義	
7 回目	急性期にある子どもと家族の看護 ・喘息 (病態、重症度分類、薬物治療、セルフケア教育)			講義	
8 回目	周手術期の子どもと家族の看護 ・鎖肛 (病態と手術、人工肛門の管理、病名告知)			講義	
9 回目	終末期にある子どもと家族の看護			講義	
10 回目	・小児がん (病態、集学的治療、骨髄・末梢血・臍帯血移植、長期フォローアップ) ・疼痛管理 (非薬物的除痛、PCA ポンプ)、真実告知、死の教育				
11 回目	障害のある子どもと家族の看護 ・国際生活機能分類、ノーマライゼーション ・医療的ケアの管理、緊急時対応、災害対策 (人工呼吸器、気管切開、HOT、喀痰吸引、中心静脈栄養、経管栄養: 胃管・胃瘻・腸瘻、透析: 血液・腹膜灌流、導尿)			講義	
12 回目	子どもの虐待と看護 ・児童虐待の定義、統計、法律、被虐待児とその親に対する看護			講義	
13 回目	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 ・常染色体異常 (21・18 トリソミー) の看護、出生前診断、性染色体異常			講義	
14 回目	救命処置が必要な子どもと家族の看護			講義	
15 回目	ファーストエイド (熱中症・脱水症と熱傷の重症度分類と看護、止血法)			演習	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験 (山本担当分 10%、薄田担当分 90%、合計 100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
子どもの病気と看護		杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 講義前には既習した子どもの特徴や疾患など必要な内容を確認して臨むこと 臨地実習で活用する内容ですので、個人の意見を活発に出し合い個別性のある看護立案に向け主体的に取り組みましょう					
科目のねらい・授業目標 小児期の主な疾患の病態・症状・治療・看護などを理解し、健康障害のある子どもと家族の特性を踏まえた看護過程を展開できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	慢性期にある子どもと家族のアセスメントの特徴 1) 小児看護の看護過程の特徴 2) 慢性期の特徴 3) 情報収集および情報の分析・解釈 4) 問題の抽出			講義・演習	
2 回目					
3 回目					
4 回目	急性期にある子どもと家族の看護過程の展開 1) 急性期の特徴 2) 情報収集および情報の分析・解釈 3) 問題の抽出 4) 目標設定および計画立案			講義 個人ワーク	
5 回目					
6 回目				演習	
7 回目	事例による看護過程展開の発表			演習	
8 回目	事例による看護過程展開の発表 試験				
評価方法 看護過程(60点)、グループワーク(10点)、試験(30点)					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
子どものケア		大高 恵美 薄田 悦子		日本赤十字東北看護大学 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 事前学習は各自責任をもって取り組みましょう 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなレポート作成を心掛けましょう					
科目のねらい・授業目標 1. 子どもの健康障害に伴う症状と援助方法について説明できる 2. 子どものフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べるができる 3. 子どもが受ける主な検査・処置と、その援助方法について述べるができる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と援助方法 ： 発熱・発疹・嘔吐・下痢			講義 グループ ワーク	講義までに事前学 習必要
2回目					
3回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 脱水・浮腫・便秘			講義	
4回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 呼吸困難・チアノーゼ・ショック			講義	
5回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 意識障害・けいれん			講義	
6回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 痛み・出血・貧血・黄疸			講義	
7回目	子どものフィジカルアセスメント			講義	
8回目	1. 子どものアセスメントに必要な技術 身体測定、バイタルサイン測定 2. 子どもの身体的アセスメント 一般状態、眼・耳、顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓・血管系、 腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器系、リンパ系、皮膚その他				
9回目	子どものフィジカルアセスメント			演習	別紙演習資料参照 ユニホーム着用
10回目	身体測定、バイタルサイン測定				
11回目	子どもが受ける主な検査や処置の特徴と、その援助方法 検体採取(採血・採尿)、穿刺(腰椎穿刺・骨髄穿刺)			講義	
12回目	子どもの与薬・経管栄養・注射・輸液療法における看護			講義	
13回目	子どもの呼吸状態緩和における看護 酸素療法・吸入・吸引			講義	
14回目	子どもの点滴固定と輸液管理			演習	別紙演習資料参照 ユニホーム着用
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート (大高 40%、薄田 60%)					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名	講義担当	所属			
母性看護学概論	佐々木 寿美礼	秋田市医師会立秋田看護学校			
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 女性を取り巻く環境と、女性の生涯の健康、ライフサイクル各期の看護および次世代育成のための支援について理解する。母性看護の基盤となる概念について学ぶ。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	母性とは① 母性の定義と親になることの意味		講義	教科書・資料	
2回目	母性とは② 母子相互作用と母親役割獲得過程、家族の発達段階		講義	教科書・資料	
3回目	リプロダクティブヘルス/ライツ セクシュアリティ		講義	教科書・資料	
4回目	母性看護の課題と倫理 母性看護の課題と倫理的問題		講義	教科書・資料	
5回目	母子保健① 母子保健に関する施策、母子保健統計の動向		講義	教科書・資料	
6回目	母子保健② 母性看護に関わる法律と施策		講義	教科書・資料	
7回目	親になるということと母性の発達、生命倫理と看護職の役割		講義・DVD鑑賞	レポート	
8回目	生殖器の形態と機能① 生殖器の形態と機能、月経周期、妊娠の成立		講義	教科書・資料	
9回目	生殖器の形態と機能② 性分化のメカニズムと生殖器の発達、性分化疾患		講義	教科書・資料	
10回目	女性のライフサイクル各期における看護① 思春期女性の特徴、思春期の健康問題と健康教育		講義	教科書・資料	
11回目	女性のライフサイクル各期における看護② 性成熟期女性の特徴、性成熟期の健康問題と看護、女性特有のがん		講義	教科書・資料	
12回目	女性のライフサイクル各期における看護③ 更年期・老年期女性の特徴、更年期・老年期女性の健康問題と看護		講義	教科書・資料	
13回目	リプロダクティブヘルスケア① 家族計画、主な性感染症と予防、DV、性犯罪、虐待		講義	教科書・資料	
14回目	リプロダクティブヘルスケア② ライフサイクルに適した健康教育の実践		グループワーク	教科書・資料	
15回目	リプロダクティブヘルスケア③ グループワーク発表		発表		
16回目	試験				
評価方法					
試験(80点)+レポート、グループワーク(20点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
周産期ケア論		古田由美子		ゆみっこ助産院	
履修時期	2年次前期・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 正常な妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的变化の特徴と看護を学ぶ。新生児の正常な経過と特徴を理解し、健康状態の観察点と看護について理解する					
授業回数	学習内容	方法		備考	
1回目	妊娠期の看護① 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性	講義		教科書・資料	
2回目	妊娠期の看護② 妊娠とその診断、胎児の発育と健康状態の診断と看護	講義		教科書・資料	
3回目	妊娠期の看護③ 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	講義		教科書・資料	
4回目	妊娠期の看護④ 妊婦が受ける母子保健サービスと健康教育	講義		教科書・資料	
5回目	分娩期の看護① 分娩の3要素および分娩の経過	講義		教科書・資料	
6回目	分娩期の看護② 産婦と胎児、家族のアセスメント	講義		教科書・資料	
7回目	分娩期の看護③ 安全分娩への看護	講義		教科書・資料	
8回目	分娩期の看護④ 分娩期の看護の実際	講義		教科書・資料	
9回目	新生児期の看護① 新生児の生理と機能	講義		教科書・資料	
10回目	新生児期の看護② 新生児のアセスメント	講義		教科書・資料	
11回目	新生児の看護③ 出生直後から生後1か月健診までの看護	講義		教科書・資料	
12回目	産褥期の看護① 産褥期の身体的・心理的・社会的変化	講義		教科書・資料	
13回目	産褥期の看護② 退行性変化、進行性変化への看護	講義		教科書・資料	
14回目	産褥期の看護③ 母乳育児支援	講義		教科書・資料	
15回目	産褥期の看護④ 育児にかかわる看護、家族への看護	講義		教科書・資料	
16回目	試験				
評価方法					
試験(合計100点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
母性看護技術		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
実習室における演習の際は身だしなみを整えること。					
科目のねらい・授業目標					
妊産褥婦の観察技術、新生児の観察技術および清潔技術援助について学び、実践できる。母子を1つの単位としてとらえ、看護過程の展開ができる。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	母性看護技術とは 妊婦、褥婦、新生児の観察技術および新生児の清潔援助		講義	教科書・資料	
2 回目	妊婦、褥婦、新生児の観察技術 レオポルド触診法と産褥期の観察、新生児のバイタルサイン測定		演習	教科書・資料	
3 回目	看護過程の展開① 母性看護における看護過程の考え方		講義・グループワーク	教科書・資料	
4 回目	看護過程の展開② 母性看護過程の展開		グループワーク	教科書・資料	
5 回目	看護過程の展開③ 母性看護過程の展開		グループワーク	教科書・資料	
6 回目	新生児の清潔援助① 新生児の沐浴		演習	教科書・資料	
7 回目	新生児の清潔援助② 新生児の沐浴		演習	教科書・資料	
8 回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験 50 点、看護過程 50 点(合計 100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
周産期の健康逸脱と看護		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
妊娠・分娩・産褥期および新生児の健康逸脱と看護について学ぶ。母子の正常な経過と起こりうるリスクをふまえた看護について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ハイリスク妊婦の看護① 妊娠期の感染症とその看護			講義	教科書・資料
2 回目	ハイリスク妊婦の看護② 妊娠期の合併症とその看護			講義	教科書・資料
3 回目	ハイリスク妊婦の看護③ 妊娠持続期間の異常とその看護			講義	教科書・資料
4 回目	ハイリスク妊婦の看護④ 胎児付属物の異常とその看護			講義	教科書・資料
5 回目	ハイリスク妊婦の看護⑤ 不妊治療とその看護			講義	教科書・資料
6 回目	分娩期の異常と看護① 産道、胎児、胎児付属物の異常とその看護			講義	教科書・資料
7 回目	分娩期の異常と看護② 異常分娩とその看護			講義	教科書・資料
8 回目	分娩期の異常と看護③ 帝王切開分娩とその看護			講義	教科書・資料
9 回目	分娩期の異常と看護④ 分娩時異常出血とその看護			講義	教科書・資料
10 回目	産褥期の異常と看護① 退行性変化の異常とその看護			講義	教科書・資料
11 回目	産褥期の異常と看護② 進行性変化の異常とその看護			講義	教科書・資料
12 回目	産褥期の異常と看護③ 産褥期の精神障害とその看護			講義	教科書・資料
13 回目	新生児の異常と看護① 新生児仮死とハイリスク新生児の看護			講義	教科書・資料
14 回目	新生児の異常と看護② 低出生体重児と高ビリルビン血症およびその看護			講義	教科書・資料
15 回目	新生児の異常と看護③ 早産児とその看護			講義	教科書・資料
16 回目	試 験				
評価方法 試験(100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神看護学概論		小林 正嘉		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
1. 「こころとは何か」「こころの健康とは何か」という問いを念頭に置き授業に臨みましょう。 2. ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。					
科目のねらい・授業目標					
履修の目的： 健康なこころの発達と機能を理解し、こころの健康を維持・増進するための保健活動について学ぶ					
1. 精神看護(学)の概念を理解し、精神看護(学)の目的・機能・役割を理解する。 2. 「こころとは」「こころの健康とは」について考え、精神看護師の役割を理解する。 3. こころの健康問題に対する考え方の変遷や法制度を通し、精神看護の対象を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	ガイダンス 精神看護学で学ぶこと 看護学における精神看護学の位置付け			講義	
2回目	精神看護学の範囲・対象・目的、構造・プロセス			講義	
3回目	「精神とは・こころとは」「こころの健康とは」			講義	
4回目	不安と「防衛機制」 「ストレスとは」「精神危機とは」 危機のプロセスと看護介入、ストレスマネジメント			講義	
5回目	精神看護の実践 「精神看護技術とは」			講義	
6回目	精神看護と看護の哲学 精神看護師の役割			講義	
7回目	実践における働き掛けの技法			講義	
8回目	中間試験				
9回目 10回目	精神医療と看護の歴史的変遷①②			講義	
11回目	予防精神医学と精神保健活動① 第1次予防 精神保健福祉に関する啓蒙・教育活動			講義	
12回目	予防精神医学と精神保健活動② 第2次予防 地域精神保健の動向 第3次予防 自殺と自殺予防			講義	
13回目	精神保健医療をめぐる法律 精神保健医療に関する法制度の変遷 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			講義	
14回目	臨床の場におけるこころの健康 精神的アプローチの実際 リエゾン精神看護 看護者のメンタルヘルスとその対応			講義	
15回目	精神看護を支える理論・概念			講義	
16回目	終了試験				
評価方法					
講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、筆記試験を総合的に評価します。					
使用するテキスト					
講義に際し資料を配布します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神看護学概論		小林 正嘉		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
1. 「こころとは何か」「こころの健康とは何か」という問いを念頭に置き授業に臨みましょう。 2. ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。					
科目のねらい・授業目標					
履修の目的：健康なこころの発達と機能を理解し、こころの健康を維持・増進するための保健活動について学ぶ					
1. 精神看護(学)の概念を理解し、精神看護(学)の目的・機能・役割を理解する。 2. 「こころとは」「こころの健康とは」について考え、精神看護師の役割を理解する。 3. こころの健康問題に対する考え方の変遷や法制度を通し、精神看護の対象を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	ガイダンス 精神看護学で学ぶこと 看護学における精神看護学の位置付け			講義	
2回目	精神看護学の範囲・対象・目的、構造・プロセス			講義	
3回目	「精神とは・こころとは」「こころの健康とは」			講義	
4回目	不安と「防衛機制」 「ストレスとは」「精神危機とは」 危機のプロセスと看護介入、ストレスマネジメント			講義	
5回目	精神看護の実践 「精神看護技術とは」			講義	
6回目	精神看護と看護の哲学 精神看護師の役割			講義	
7回目	実践における働き掛けの技法			講義	
8回目	中間試験				
9回目 10回目	精神医療と看護の歴史的変遷①②			講義	
11回目	予防精神医学と精神保健活動① 第1次予防 精神保健福祉に関する啓蒙・教育活動			講義	
12回目	予防精神医学と精神保健活動② 第2次予防 地域精神保健の動向 第3次予防 自殺と自殺予防			講義	
13回目	精神保健医療をめぐる法律 精神保健医療に関する法制度の変遷 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			講義	
14回目	臨床の場におけるこころの健康 精神的アプローチの実際 リエゾン精神看護 看護者のメンタルヘルスとその対応			講義	
15回目	精神看護を支える理論・概念			講義	
16回目	終了試験				
評価方法					
講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、筆記試験を総合的に評価します。					
使用するテキスト					
講義に際し資料を配布します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神看護技術		備前 由紀子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>ペプロウの人間関係論及びセルフケア理論については、事前に参考資料を読み授業に参加しましょう。</p> <p>臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなノートの作成を心がけましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>精神看護における基本技術と精神看護の展開方法を理解する。</p>					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	患者一看護師関係成立発展 1) ペプロウの人間関係論			講義	
2回目 3回目	治療的コミュニケーション技術 1) 治療的コミュニケーションの定義 2) 介入が必要な状況や現象 3) 介入方法 4) 介入の留意点 5) 患者一看護師のコミュニケーションの実際			講義 演習	
4回目 5回目	自己洞察の意義と再構成 1) プロセスレコードとは 2) プロセスレコードの活用目的 3) プロセスレコードの記述方法 4) 事例を通して(ペプロウの看護理論を用いて)			講義 グループワーク	
6回目 7回目	セルフケア理論の理解 1) オレムによるセルフケアの定義 2) アンダーウッドによるオレム看護論の修正・操作化 3) ケアレベルとセルフケア評価 セルフケア行動の観察のポイントと具体的援助方法			講義 グループワーク	
8回目	試験・まとめ				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験：80点 課題ノート：20点</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社</p>					
<p>参考文献</p> <p>講義に関係のあるものを随時紹介する</p>					

科目名		講義担当		所属	
精神の健康障害と看護		備前 由紀子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
講義前には、既習した精神疾患など必要な内容を確認して臨みましょう。 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなノートの作成を心掛けましょう。					
科目のねらい・授業目標					
精神に障害のある対象の症状や問題の特徴、疾患に応じた看護のあり方を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目	統合失調症(急性期)患者の看護①②			講義 演習	
3回目 4回目	統合失調症(慢性期)患者の看護①②			講義	
5回目	気分障害患者の看護			講義	
6回目 7回目	認知症患者の看護①②			講義 グループワーク	
8回目	中間試験				
9回目	心身症患者の看護			講義	
10回目 11回目	パーソナリティ障害患者の看護①②			講義	
12回目	アルコール関連障害患者の看護			講義	
13回目	強迫性障害患者の看護			講義	
14回目	不安症性障害患者の看護			講義	
15回目	摂食障害患者の看護				
16回目	終了試験				
評価方法					
筆記試験、講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組みを総合的に評価します。					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
精神障害者の 日常生活援助		備前 由紀子 高橋 将太		秋田市医師会立秋田看護学校 市立秋田総合病院	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を熟読しわからないところを明確にして臨みましょう。 精神に障害のある対象の生活の場を学び、グループワークでは各自の意見を尊重し活発に話し合い、自立を支えるための看護について考えていきましょう。					
科目のねらい・授業目標 1. 精神科における治療と看護の役割・身体ケアを理解できる。 2. 精神科医療におけるリハビリテーションの意味や社会資源について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	序章			講義	
2回目	精神科看護におけるケアの方法				
3回目	1)「治療的関わり」の考え方 2)日常生活行動の援助 3)服薬治療に関わる援助				
4回目	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割 1)ストレスマネジメント 2)精神看護にかかわる資格認定			講義	
5回目	入院環境と治療的アプローチ 1)治療の場としての精神科病棟 2)治療的環境を整える 3)精神科病棟でのミーティング—事例から考える— 4)災害時の支援			講義	
6回目	看護の倫理と人権擁護			講義	
7回目					
8回目	救急医療現場における患者支援と精神的関わり 1)自殺企図により救急搬送される患者 2)急性薬物中毒で救急搬送される患者			講義	
9回目	臨地実習から学ぶ			講義 グループワーク	
10回目	1)精神科の看護実習とは				
11回目	2)患者からのさまざまな感情表出				
12回目	3)カンファレンスの意義 4)実習記録				
13回目	「地域で暮らす」を支える 1)日本における精神障害者と精神病床の現状 2)「入院医療」から「地域社会」での生活へ			講義	
14回目	「地域で暮らす」を支える			講義	
15回目	精神保健福祉士の役割 3)地域生活を支える社会資源の活用 4)地域生活(移行)支援の実際 5)事例で学ぶ長期入院患者の退院支援から地域生活支援				
16回目	試験				
評価方法 筆記試験:100点(備前85点 高橋15点)					
使用するテキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名	講義担当		所属		
国際看護	新沼 剛		日本赤十字東北看護大学		
履修時期	3年次後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 普段から新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で人間の健康や環境に影響を与える出来事に関心を持ち、情報を収集しておくこと。					
科目のねらい・授業目標 広い視野に立った保健・医療・福祉を考える人材を育成する。 1.国際社会の現状と国際看護について理解できる。 2.世界の人々の健康問題について学び、異文化の価値観を尊重した看護について考えることができる。 3.国際看護活動の課題について考えることができる。					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	ガイダンス ・国際看護の定義・目的・対象 ・世界の人々はどのような環境のもとどのような生活をしているのか		講義	資料	
2回目	持続可能な開発目標(SDGs)を理解できる ・SDGsの定義 ・SDGsの保健分野の目標(妊産婦の健康、こどもの健康)		講義	資料	
3回目	・SDGsの保健分野の目標(感染症疾患、非感染症疾患)		講義	資料	
4回目	国際協力における保健医療専門機関の役割・活動の実際について理解できる ・国際機関の役割と活動		講義	資料	
5回目	・政府系援助機関の役割と活動 ・赤十字、非政府組織(NGOs)の役割と活動		講義	資料	
6回目	プライマリーヘルスケア(PHC)を理解できる ・PHCの概念 ・ラクの物語の考察		講義	資料	
7回目	社会的マイノリティを理解できる ・在留外国人の健康問題と看護 ・性的マイノリティの方々の健康問題と看護		講義	資料	
8回目	試験・まとめ		筆記試験		
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト テキストは特に定めず、プリントを配布する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
災害看護		鎌田 朝子		秋田厚生医療センター	
履修時期	3年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点 「いつおこるかわからない」「いつおこってもおかしくない」のが災害です。メディア、書物などから災害をイメージし、臨んでください。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害および災害看護に関する基礎的知識について理解する 2. 災害発生時の社会対応やしきみを理解する 3. 災害時に看護が果たす役割、災害サイクルに応じた看護活動について理解することができる 					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1. 災害看護の基礎を学ぶ			講義	
2回目	2. 超急性期看護を理解する 1) トリアージ方法 2) トリアージタグの使用 3) 災害特有の疾病			講義 演習	
3回目	3. トリアージ演習				
4回目	4. 急性期の看護を理解する 1) 応急救護所でのトリアージ、応急処置、搬送 2) 被災地病院での患者受け入れ 3) 避難所で行う看護活動			講義 演習	
5回目	5. 被災地病院での患者受け入れ机上シミュレーション				
6回目	6. 亜急性期の看護を理解する 1) 避難所、巡回診療で行う看護活動 2) 災害時の感染症、感染症対策			講義	
7回目	7. 慢性期、静穏機の看護を理解する 1) 医療のニーズの特徴 8. 病院の防災・減災対策 9. こころのケア			講義	
8回目	試験				
<p>評価方法 筆記試験 演習の参加状況</p>					
<p>使用するテキスト なし</p>					
<p>参考文献 災害の統合と実践②災害看護学 メジカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野 災害の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学 看護学テキスト 災害看護 南江堂</p>					

科目名 看護マネジメントと 医療安全		講義担当 吹谷由美子(1回目～11回目) 成田 雪美(12回目～15回目)		所属 秋田県看護協会 医療法人運忠会 土崎病院	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を読み授業に参加すること。					
科目のねらい・授業目標 1.より良い看護サービスを提供するために、看護組織の一員として、医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ。 2.広がる看護の活動領域について理解し、看護の質向上が図られていることを学ぶ。 3.看護倫理の基本原則と自己の看護実践を振り返る基盤となる倫理的行動を探求できる。 4.医療安全の考え方を学ぶ。 5.医療事故を予防するための安全システムを学ぶ。 6.事象事例をもとに、講義や既習の知識を活用し安全対策を考えることができる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1.看護とマネジメント ・看護管理の概略が分かる ・マネジメントプロセスとマネジメントサイクルが分かる ・看護のマネジメントが必要とされている場が分かる			講義	教科書1
2回目 3回目	2.ケアのマネジメント ・患者の権利を守るための概念について理解できる ・看護ケアシステムの種類と特徴について理解し、また他職種との連携・職務を理解することができる			講義	教科書1
4回目 5回目	3.看護サービスのマネジメント ・医療サービスの概念が分かり、評価の必要性を理解できる ・組織をマネジメントするにあたり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化との関わりを理解することができる ・人的資源のマネジメントについて、看護システムの種類・看護単位・労働管理について理解することができる。 ・情報・物品のマネジメントを理解することができる			講義	教科書1
6回目	4.看護をとりまく諸制度 ・看護の定義や看護を取り巻く環境要因としての諸制度を理解できる ・看護教育について理解することができる			講義	教科書1
7回目	5.マネジメントに必要な知識と技術 ・組織の構造とその原理について理解し、マネジメントの関連について理解できる ・組織における人間関係についての諸理論について理解できる ・組織の中での意思決定等個人の能力を広げるための要素について理解できる			講義	教科書1
8回目	試験			筆記試験	
9回目	1.看護のための安全管理(総論) 1)医療安全を学ぶことの重要性 2)医療安全の考え方の変化 3)医療安全に関する基本的用語 4)看護師の法的規定 5)医療安全対策への取り組み			講義	教科書2

授業回数	学習内容	方法	備考
10 回目	2.ヒューマンエラーの見方・考え方 1)安全とは 2)ヒューマンエラー発生メカニズム 3)エラーに関係のある人間の特性 4)エラーを起こしやすい環境要因	講義	教科書 2
11 回目	3.事故分析・事故対策 1)事故の構造 2)事故分析の考え方と具体的方法 3)エラーが起こりにくいしくみ作り 4)体系づけられたエラー対策の考え方	講義	教科書 2
12 回目	4.医療事故後の対応 5.リスクマネジメント: チームで取り組む安全文化の醸成 1) リスクマネジメント 2) チームで取り組む安全文化	講義	教科書 2
13 回目	6.看護業務に関連する事故と安全対策 I 1)看護業務を行う際の環境の特徴とリスク 2)プロセス型の事故と非プロセス型の事故 3)起こしてはいけない事故(間違い)	講義	教科書 2
14 回目	7.看護業務に関連する事故と安全対策 II 1)看護業務に関連する医療事故の種類 2)看護業務に関連する医療事故の対策	講義	教科書 2
15 回目	8.看護業務上の危険と防止策 9.看護学生の実習と安全	講義	教科書 2
16 回目	試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験: 吹谷 4 割 成田 6 割			
使用するテキスト 1.系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理.医学書院 2.ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 . MC メディカ出版			
参考文献 ・河野龍太郎 「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院 ・東京慈恵会医科大学付属病院 看護部・医療安全管理部編著 TeamSTEPPS を活用したヒューマンエラー防止策			

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
看護の統合		薄田悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	3年次前期	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>受講上の留意点</p> <p>これまでの講義や実習、学習で培った力に合わせてチームで協働して働くとはどういうことかを考え、対象の安全と安楽、自立を基盤に、大切にしたい看護を行動に示すことが必要です。既習科目のすべてを復習して臨んでください。</p> <p>学習効果を高めるため演習を実施します。</p> <p>臨地実習において活用していきますので積極的に参加しましょう。</p>					
<p>科目のねらい・授業目標</p> <p>1.看護師としての自己を振り返り、看護観を深める。</p> <p>2.看護場面で「起こりやすい現象」を予測し、倫理的配慮を行いつつ安全な看護を提供できる。</p>					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1回目	複数の事例を理解し、優先順位を考えた看護計画立案 1.授業計画ガイダンス 2.事例提示 3.複数事例のアセスメント、看護計画立案		講義 個人ワーク	教科書 1・2	
2回目				教科書 1・2	
3回目	時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性 1.多重課題への対処 2.優先度に合わせた援助計画 3.優先度に合わせた援助内容の修正		講義・演習 グループワーク	教科書 1・2 実習室にて演習	
4回目					
5回目	状況判断が必要とされる場面における自己の課題 1.自己の課題を見出す		講義 個人ワーク	教科書 1・2	
6回目	チームメンバーと連携しながら、看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価を実践する。 1.複数の受け持ち患者の対する看護実践 2.突発的な事象への対処 3.グループ討議を通して看護の優先度について振り返る		講義・演習 グループワーク	教科書 1・2 実習室にて演習	
7回目					
8回目					
<p>評価方法</p> <p>ワーク取り組み状況、演習状況、レポート</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理.医学書院</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全.医学書院</p>					
参考文献					

臨地実習

基礎看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 基礎看護学実習 I

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解する
実習目標	1. 看護が提供されている場としての病院を理解する 2. 実際の看護活動の見学を通して、看護師の役割を考える 3. 看護学生としての自覚を持ち、社会性を身につける

2. 基礎看護学実習 II

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解し、対象が目指す健康を考え、日常生活援助を実践することができる
実習目標	1. 看護が提供されている場を理解する 2. 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面から理解する 3. 看護の対象を生活者として捉え、対象が目指す健康を考える 4. 根拠と留意点を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる 5. 看護の対象者の反応を観察・記録・報告し、実践した援助行為について振り返ることができる 6. 看護学生としての自覚をもち、社会性を身につける

3. 基礎看護学実習 III

実習目的	健康障害にある人を総合的に理解し、その人に必要な個別的・計画的な看護を行うことで、基礎的援助の実践能力を養う
実習目標	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる 3. 健康障害にある人の看護問題を優先順位にしたがい、問題解決のための計画（具体策）の立案ができる 4. 健康障害にある人の計画（具体策）を実践し、その成果を評価・修正することができる 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる

II. 実習方法

1. 実習単位・実習時期・実習期間

	実習単位	実習時期	実習期間
基礎看護学実習 I (病院を知る実習)	1 単位	1 年次前期	5 日間
基礎看護学実習 II (日常生活を知る実習)	1 単位	1 年次後期	5 日間
基礎看護学実習 III (看護過程)	2 単位	2 年次後期	10 日間

2. 主たる実習病棟：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター

3. 実習方法：実習要項参照

4. 実習配置：配置表を参照

5. 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

6. 学内演習：実習要項参照

III. 実習の評価

1. 評価対象：実習記録、実習態度、自己学習、出席状況

2. 評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う

3. 評価基準：実習評価表に基づいて評価する

4. 単位認定：単位認定は学則に基づく

地域・在宅看護論実習(19期生・20期生)

I.実習の目的・目標

1.地域・在宅看護論実習 I

実習目的	地域で暮らす全ての生活者の特徴がわかり、生活者を支援する社会資源や多職種連携を理解できる。
実習目標	(保健所) 1.暮らす人々の健康を支える保健所の活動内容が理解できる。 (地域包括支援センター) 1.地域包括支援センターを利用する対象の目的と、援助の必要性が理解できる。 (各施設) 1.地域で生活している生活者を理解できる。 2.住み慣れた場所で安心して生活できるような援助が行われているのか理解できる。 3.社会資源の活用と多職種連携を理解できる。 4.地域で生活している生活者を理解するために、主体的に学習できる。

2.地域・在宅看護論実習 II

実習目的	在宅療養者と家族の特徴を理解し、住み慣れた場所で生活がおくれるよう支援するための基礎的能力を養うことができる。また、在宅療養を支える社会資源や多職種連携を理解できる。
実習目標	1.在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。 2.事例を通して、訪問看護における看護過程と援助方法が理解できる。 3.訪問看護師の役割と社会資源の活用、多職種連携が理解できる。 4.在宅における看護について主体的に学習できる。

II.実習方法

1.実習単位:4 単位 180 時間

地域・在宅看護論実習 I 90 時間

地域・在宅看護論実習 II 90 時間

2.実習時期:地域・在宅看護論実習 I 1 年前期

地域・在宅看護論実習 II 3 年前・後期

3.実習施設

地域・在宅看護論実習 I	秋田市保健所・地域包括支援センター 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所(ショートステイ) 通所施設(デイサービス)・障がい者施設
地域・在宅看護論実習 II	居宅介護支援事業所 訪問看護ステーション

4.実習方法

1)地域・在宅看護論実習 I :10 日間を 1 クールとし実施

(1)各施設へ訪問し、見学実習

(2)実習配置:配置表を参照

(3)実習記録:既定の実習記録用紙を使用

2)地域・在宅看護論実習 II :10 日間を1クールとし実施

(1)居宅介護支援事業所は見学実習

問看護ステーション実習は、1事例を受け持ち看護展開を実施

受け持ち以外の訪問看護実習は、見学とする

(2)実習配置:配置表を参照

(3)実習記録:既定の実習記録用紙を使用

(4)カンファレンス

5.その他

事前学習準備として、実習要項の事前学習内容を学習し実習に臨むこと

III.実習評価

1.評価対象:学習内容・学習行動・看護過程・実習記録・出席状況

2.評価者:実習指導者と教員の両者で実施するが、最終評価は教員が行う

3.評価基準:評価表に基づき評価する

4.単位認定:各実習終了後に評価し、単位認定とする

5.単位認定の条件:単位認定は学則に基づく

成人・老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 成人・老年期の健康管理実習

実習目的	地域に暮らす成人期・老年期にある人の健康保持・増進・疾病予防活動における看護の実際と役割について学ぶ。
実習目標	1. 地域における健康増進活動の実際を理解する。 2. 地域における健康増進活動の内容と看護の役割について理解する。 3. 保健所や市町村保健センター・保健センター・産業保健室等の機能と役割を理解する。

2. 成人・老年期の周手術期実習

実習目的	周手術期における対象の病態、治療およびそれに伴う対象とその家族の心理・社会的側面を理解し、状況の変化に応じて、回復および適応への援助ができる能力を習得する。また、クリティカルケアの場における生命維持のための看護と、対象の人権擁護家族に対する支援を考慮した看護のあり方を学ぶ。
実習目標	1. 対象とその家族を包括的に理解し、援助の必要性を判断する。 2. 対象とその看護に対して、状況に応じた看護を展開できる。 3. 対象とその家族とのかかわりを通して、倫理的な判断や行動ができるための能力を習得する。 4. 周手術期看護における看護チームの機能および他職種との連携・協働の必要性とそのあり方を学ぶ。 5. クリティカルケアの場を見学することで特殊な環境における看護のあり方を考える。

II. 実習方法

1. 実習単位・時期・期間

	実習単位	実習時期	実習期間
成人・老年期の健康管理実習	1単位 45時間	2年次 後期	5日間
成人・老年期の周手術期実習	2単位 90時間	3年次 前・後期	10日間

2. 実習施設：秋田市保健所・県内各市町保健センター、健康管理センター、企業保健室、市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、他実習要項参照

3. 実習方法

成人・老年期の健康管理実習は5日間を1クールとし実施する。

成人期の慢性期・終末期実習は10日間を1クールとし実施する。

- 1) 受け持ちは実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
- 2) 実習配置：配置表を参照
- 3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用
- 4) カンファレンス

4. 見学実習

見学実習においては、対象の健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する

5. その他

実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康レベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して実習に臨むこと

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
3. 評価基準：評価表に基づき評価する
4. 単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする
5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

成人期の慢性期・終末期実習

I.実習の目的・目標

実習目的	生涯にわたりセルフコントロールが必要な人の特徴を理解し持てる力を活かし対象とその家族へ個別性のある看護を実践する能力を養う。
実習目標	1.生活する対象とその家族を包括的に理解し、持てる力を活かした援助の必要性を判断できる。 2.障害をもちながらも、障害セルフコントロールにより、生活の質を高められるようなセルフケア教育・健康教育ができる。 3.対象とその家族を支える他職種連携と、チームにおける看護師の役割を理解できる。 4.終末期にある対象が意義深く生きられるように、また尊厳を維持した援助を理解できる。

II.実習方法

1.実習単位：2単位 90時間

2.実習時期：3年次前・後期

3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、外旭川病院

4.実習方法：10日間を1クールとしとし実施

1)受け持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。

2)実習配置：配置表を参照

3)実習記録：既定の実習記録用紙を使用

4)カンファレンス

5.見学実習

見学実習においては、対象の健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する

6.その他

実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康レベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して実習に臨むこと

III.実習の評価

1.評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況

2.評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う

3.評価基準：評価表に基づき評価する

4.単位認定：各実習終了後に評価し、単位認定とする

5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

実習目的	加齢と健康障害にある高齢者の特徴を理解し、対象に必要な看護を実践する能力を養う。
実習目標	1. 老年期の特徴と健康障害の関連が理解できる。 2. 高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3. 高齢者の社会資源の活用方法が理解できる。 4. 高齢者と高齢者を支援する人々の関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。

II. 実習方法

1. 実習方法：2 単位 90 時間
2. 実習時期：3 年次前・後期
3. 実習施設：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター
4. 実習方法：10 日間を 1 クールとし実施
 - 1) 受け持ちは、実習指導員・教員で選定し、学生が決定する
 - 2) 実習配置：配置表を参照
 - 3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用
 - 4) カンファレンス
5. その他
事前学習として老年期における発達段階と健康問題、加齢と老化、一般的な疾患を学習し実習に臨むこと

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
2. 評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う
3. 評価基準：評価表に基づき評価する
4. 単位認定：老年看護学実習終了後に評価し、単位認定とする
5. 単位認定：単位認定は学則に基づく

小児看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 小児看護学実習

実習目的	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う
実習目標	1.健康な小児の成長発達の特徴と必要な支援について理解できる 2.小児各期の成長・発達段階に応じた接し方ができる 3.健康の保持増進・疾病予防のための援助ができる 4.患児の成長・発達段階、健康レベルにあわせた看護計画を立案することができる 5.健康障害が小児と家族および取り巻く人々に及ぼす影響を理解することができる 6.医療チームの一員としての役割が理解できる

II. 実習方法

- 1.実習単位：2単位 90時間
- 2.実習時期：3年前・後期
- 3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、市内の保育所
- 4.実習方法：10日間を1クールとし実施
 - 1)病棟実習では、小児1名を受け持ち、看護計画を立案、実施、評価する
 - 2)外来実習では、乳児健診、予防接種を見学し、必要な看護技術を実践する
 - 3)実習配置：配置表を参照
 - 4)実習記録：既定の実習記録用紙を使用
- 5.学内実習：乳児健診時の身体計測と予防接種に必要な看護技術を実践する
- 6.その他：事前学習として以下の項目を学習して臨むこと
 - 1)各期の子どもの特徴・成長・発達と日常生活援助
 - 2)病期における子どもと家族のアセスメントの特徴
 - 3)健康障害をもつ子どもと家族への看護
 - 4)子どものフィジカルアセスメント(バイタルサイン測定、身体計測、診察時の介助)
 - 5)小児の疾患と看護
 - 6)検査と看護
 - 7)治療と看護：吸入療法、酸素療法、食事療法、輸液療法

III. 実習の評価

- 1.評価対象：学習内容・学習行動、実習記録、出席状況
- 2.評価者：病棟実習指導者と実習指導担当教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価表に基づき評価する
- 4.単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

母性看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 母性看護学実習

実習目的	妊娠、分娩、産褥における母性の特徴を理解し、妊産褥婦及び新生児に必要な看護と、保健指導が行える基礎能力を養う。
実習目標	1.産褥期の身体的・精神的・社会的変化と健康状態および新生児の正常な経過について説明できる。 2.健康な対象であることをふまえ、褥婦および新生児の経過に応じ、個別に合わせた看護援助を計画、実践できる。 3.母子保健と多職種連携、社会資源および継続看護の必要性について考察できる。 4.生命誕生への関わりと看護実践を通して自己の母性観、父性観を明らかにできる。 5.看護学生として主体的に取り組み、対象を尊重する姿勢をもち、看護師としての基本的態度を養う。

II. 実習方法

- 1.実習単位：2単位90時間
- 2 実習時期：3年前・後期
- 3.実習施設：秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、産前産後ケアハウス助産院ば一す、並木クリニック
- 4.実習方法：10日間を1クールとし実施
 - 1)病棟実習では産婦、褥婦、新生児の一組を受け持ち、看護計画を立案、実施、評価する。
 - 2)外来実習(産前産後ケアハウス助産院ば一す、並木クリニック)では妊婦健診、母乳外来や母親学級その他の見学をおこない、地域母子保健について学習する。
 - 3)実習配置：配置表を参照
 - 4)実習記録：既定の実習記録用紙を使用
- 5.学内演習：分娩監視装置の判読の基本、シミュレーターを用いた妊婦の健康診査、産褥期の観察、新生児の計測などを学習する。
- 6.その他：事前学習として以下の項目について学習しておくこと。
 - 1)産褥期および新生児の正常な経過。褥婦は全身状態、退行性変化、進行性変化についてすべて根拠をもって観察できるよう学習する。進行性変化においてはポジショニング・ラッチオンの観察が必須であるため、観察項目を整理しておくことよ。
 - 2)産褥期、新生児期に起こりやすい異常およびその予防と看護。
 - 3)妊娠期の生理的変化、マイナートラブルとその看護および保健指導、妊婦健康診査、胎児の成長発達。
 - 4)分娩の経過と産婦への看護
 - 5)母性看護技術(新生児の計測、抱っこ、沐浴、レオポルド触診法)※練習していない場合は実践不可。
 - 6)沐浴指導の原稿を作成し、実習初日に提出すること。

III. 実習の評価

- 1.評価対象：学習内容・学習行動、実習記録、出席状況
- 2.評価者：病棟実習指導者と実習指導担当教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価表に基づき評価する
- 4.単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

精神看護学実習

I.実習の目的・目標

1.精神看護学実習

実習目的	精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象者とのかかわりを通して看護者の役割を学ぶ。
実習目標	1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。 3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。 5. 対象者とのかかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。 6. 薬物療法、その他の療法について理解できる。 7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。

II.実習方法

- 1.実習単位：2単位 90時間
- 2.実習時期：3年前・後期
- 3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田緑ヶ丘病院、秋田回生会病院及び関連施設
- 4.実習方法：10日間を1クールとし実施
以下の患者を1例受け持ち看護展開する
 - 1)市立秋田総合病院：精神症状が比較的捉えやすく、日常生活に影響している患者とする
 - 2)秋田緑ヶ丘病院、秋田回生会病院：レクリエーション・作業療法に参加している慢性期にある患者とする
- 3)実習配置：配置表を参照
- 4)実習記録：既定の実習記録用紙を使用

III.実習の評価

- 1.評価対象：実習要項に沿って評価する
- 2.評価者：実習指導者と教員で行う、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価基準に基づき評価する
- 4.単位認定：精神看護学実習終了後に評価し単位認定とする

看護の統合と実践

I. 実習の目的・目標

1. 看護の統合と実践

実習目的	看護チームの一員として看護管理の視点を持ち、複数患者の受け持ち・多重課題を通して、看護の既習知識・技術・態度を統合した専門職として必要な看護実践能力を高める。
実習目標	1. チームメンバーと情報を共有しながら複数の受け持ち患者を理解し、看護計画を立案できる。 2. 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を優先順位や時間管理を踏まえ、チームで協力しながら安全に実施できる。 3. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる。 4. 病院組織における看護管理、医療安全の実際を理解できる。 5. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。 6. 医療チームの一員としての役割と連携を理解し自己の課題を明確にできる。

II. 実習方法

1. 実習単位：実習時間：2 単位 90 時間。

2. 実習時期：3 年後期

3. 実習施設：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター。

4. 実習方法：10 日間を 1 クールとし実施

1) 受け持ちケースについて

2 人以上の患者を同時に受け持ち、看護実践をする。

重症患者、医療（人工呼吸器装着など）、看護必要度（全介助）の高い患者は避ける。

援助の実施を中心に考えるのではなく、観察・行動の優先順位について考えられる患者が望ましい。

2) 実習配置：配置表を参照（病棟、夜間、看護管理、地域連携）

3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

5. 事前学習および準備：以下の項目について事前学習および準備を行う。

1) 看護におけるマネジメント（看護組織、看護提供システム、複数の看護業務が同時に発生した場合の判断や対処方法、看護業務に関する情報の取り扱い、医療安全、看護師の働き方

2) 地域医療連携、継続看護、多職種連携

3) 看護場面における自身の安全確保、発災時の看護

4) 最終実習に向けて自己の実習体験を振り返り、実習目標を明らかにする。

5) 卒業までに到達したい看護技術について、十分経験できるよう実習計画を立てる。

6) 実習病棟の特徴的疾患と看護。

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況。

2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。

3. 評価基準：評価表に基づき評価する。

4. 単位認定：既習全ての臨地実習終了後に評価し、単位認定とする。

5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく。

